



著作権と商標について

特記事項

本書およびその他のすべての文書 (印刷物または電子的形式のもの) は参照のみを目的に提供されています。本書の情報の完全性および正確性については最善の努力を払いましたが、本書およびその他のすべての文書の内容は現状のままで提供されるものであり、IBM は法律が許す限り、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証および特定目的適合性の保証を含むいかなる明示もしくは黙示の保証責任を負いません。IBM は本書またはその他の文書の使用もしくはそれらに関連して発生した直接的、間接的、結果的あるいは偶発的損害を含むいかなる損害についても責任を負いません。本書またはその他の文書は、IBM (またはその他の供給者やライセンサー) にいかなる保証責任を負わせるものではなく、本ソフトウェアの使用に際するライセンス契約の内容も一切変更しないものとします。

本書またはソフトウェアの使用に関する該当のライセンス契約に記載されている場合を除き、IBM Corporation の文書による同意なく、本書およびソフトウェアの一部または全部を、複写、複製、再生、翻訳、または電子媒体もしくは機械可読形式へ置き換えることは著作権法により禁止されています。

(C) Copyright IBM Corporation 1998, 2005.

All rights reserved.

Lotus Software, IBM Software Group
One Rogers Street
Cambridge, MA 02142

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

iSeries	Lotus	QuickPlace
iSeries Client Access	Lotus Notes	
Power PC	Lotus Domino	
OS/400	Sametime Connect	

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

Part Number LOTUSS700I

目次

第 1 章 IBM Lotus Sametime の概要	1
このガイドについて	1
Lotus Sametime とは	2
Instant Messaging Limited Use version とは	3
Sametime 7 for i5/OS の新機能	5
i5/OS プラットフォーム上の Sametime について	6
Lotus Sametime の要件	7
Sametime のインストールおよび設定に必要な i5/OS の権限	8
インストール済み i5/OS ソフトウェアの確認方法	9
システムにインストールされている Sametime のバージョンの確認	10
Sametime サーバーの要件	11
Sametime Client の要件	14
その他の詳細	15

第 2 章 TCP/IP 環境の設定	17
ホストテーブルのエントリを確認する	17
既存の Domino Server の設定を確認する	18
Sametime サーバーの TCP/IP アドレスを選択する	19
TCP/IP アドレスの追加	20
ホストテーブルを更新する	20
ドメインネームサーバーを更新する	21
既存の Domino Server の設定を更新する	22
サーバーのプロパティを変更する必要があるかどうかを確認する	23
サーバーのプロパティを変更する	23
IBM HTTP サーバーの設定を更新する	25

第 3 章 新しい Sametime 環境の設定	27
Sametime 設定オプション	27

新しい Domino Server を設定し、Sametime を追加する	28
既存の Domino ドメインに Domino Server を追加して から Sametime を追加する	28
新しい Domino ドメインで Domino Server を設定する	29
既存の Domino ドメインに Domino Server を追加する	31
Notes Client と Domino Administrator のインストールと 設定	34
Sametime を追加するために Domino Server の設定を 確認する	34
Domino Server へのアクセスを確認する	36
<hr/>	
第 4 章 既存の Sametime 環境をアップグレードするための準備	39
Instant Messaging Limited Use version から完全版の Lotus Sametime にアップグレードする	39
メモ	40
アップグレード時のリリース別考慮事項	40
サーバーをアップグレードする準備を整える	42
データのバックアップ	44
<hr/>	
第 5 章 Sametime のインストール	47
Lotus Sametime ソフトウェア使用許諾契約に事前に同意 する	47
Sametime をインストールまたはアップグレードする	49
ライブラリリストの確認	50
Sametime ランゲージパックのインストール	51
ランゲージパックをインストールする	52
2 バイト言語用の追加フォントをインストールする	53
ランゲージパックを削除する	53
Domino Server に Sametime を追加する	53
Sametime Instant Messaging を検証する	55
Sametime Web Conferencing を検証する	56
(アップグレードのみ) アップグレードプロセスを完了する	58
<hr/>	
第 6 章 Sametime クライアントソフトウェアの配置	61
各種 Sametime クライアントの概要	61
Sametime クライアントパッケージ	63

カスタマイズしたデスクトップ用 Sametime Connect クライアントをサーバーに配置する	65
SISD (Sametime Installer for Secure Desktops)	67

第 7 章 Sametime の管理

Sametime サーバーを起動する	70
iSeries ナビゲーターを使用して Sametime サーバーを 起動する	70
コマンドを使用して Sametime サーバーを起動する	70
Sametime サーバーを終了する	71
iSeries ナビゲーターを使用して Sametime サーバーを 終了する	71
コマンドを使用して Sametime サーバーを終了する	71
稼働している Domino Server で Sametime のコンポーネントを 起動する	72
稼働している Domino Server で Sametime のコンポーネントを 終了する	72
既存のサーバーを Limited Use version または完全版の Sametime に変更する	73
IP アドレスを変更する	73
ホスト名を変更する	74
複数の IP アドレスを使用した HTTP トンネリングを使用する場合 にホスト名を更新する	75
Domino Server から Sametime を削除する	76

第 8 章 Sametime のオプション設定

Sametime Conversion Services for whiteboard attachments を 使用する	79
ホワイトボードの内容の保存機能を有効にする	80
完全版の Sametime サーバーが含まれている環境で Limited Use version の Sametime を使用する	81
Sametime ツールキットをインストールする	82
コミュニティサービスマルチプレクサを使用する	82
SIP ゲートウェイおよび SIP コネクタを使用する	83

付録 A Sametime のインストールと設定に関するチェックリスト

新規インストールチェックリスト	86
-----------------------	----

アップグレードチェックリスト	87
<hr/>	
付録 B コマンドを使用した TCP/IP 環境の設定	89
コマンドを使用してホストテーブルのエントリを確認する	89
コマンドを使用して既存の Domino Server の設定を確認する	90
コマンドを使用して Sametime サーバーの TCP/IP アドレスを選択 する	90
コマンドを使用して TCP/IP アドレスを追加する	91
コマンドを使用してホストテーブルを更新する	92
ドメインネームサーバーを更新する	94
コマンドを使用して既存の Domino Server の設定を更新する	95
コマンドを使用して IBM HTTP サーバーの設定を更新する	96
<hr/>	
付録 C コマンドを使用した Domino Server の設定	99
コマンドを使用して新しい Domino ドメインで Domino Server を 設定する	99
コマンドを使用して既存の Domino ドメインに Domino Server を 追加する	102

第 1 章 IBM Lotus Sametime の概要

IBM(R) Lotus(R) Sametime(R) 7 for i5/OS(TM)をご利用いただき、ありがとうございます。この製品は Web サーバー、IBM Lotus Notes(R)、T.120 データ会議、オンラインウェアネスのテクノロジーを統合した製品です。これを使用してコミュニティのユーザーは、リアルタイムでインタラクティブなオンラインミーティング、インスタントメッセージング、グループチャットセッションに参加できます。これにより、Sametime コミュニティに参加しているすべてのユーザーのデスクトップで、強力なリアルタイムコラボレーションツールが使用できるようになり、ユーザーの作業範囲は大きく広がります。

このガイドについて

このインストールガイドでは、i5/OS オペレーティングシステム上で Sametime をインストールして管理する方法について説明します。また、i5/OS に特有な Sametime の状況と、管理者が次の作業を行う場合に必要な手順についても説明します。

- TCP/IP 環境の設定
- 新しい Sametime 環境の設定
- 既存の Sametime 環境をアップグレードするための準備
- Sametime のインストール
- Sametime Client ソフトウェアの設定
- Sametime の管理
- Sametime のオプション構成の設定

このガイドは、Sametime の Instant Messaging Limited Use version と Sametime の完全版の情報を含みます。「Sametime」という用語は、両方のバージョンを示すために使用します。2つのバージョンを区別する必要がある場合には、「Instant Messaging Limited Use version」と「Sametime の完全版」という用語を使用します。

ドキュメントに関するフィードバック

Lotus Sametime User Assistance Feedback は、このインストールガイドに関するご意見をお寄せいただくためにインターネット上に公開しているフォームです。このフォームは、次の Web サイトでご利用いただけます。

Lotus Sametime とは

Lotus Sametime はクライアントアプリケーションとサーバーアプリケーションから構成されます。ユーザーのコミュニティはこれによりイントラネットまたはインターネット上でリアルタイムのオンラインミーティングに共同参加できます。

Sametime コミュニティのメンバーは、在席確認、チャット、画面共有、共有ホワイトボード、リアルタイムのオーディオ/ビデオ機能などのコラボレーションアクティビティを使用して、インスタントミーティングや予約済みミーティングを通じて会話、会話、および作業を行うことができます。

Lotus Sametime for i5/OS は、2つの製品オプションで構成されています。*BASE 製品オプションには、Sametime のインスタントメッセージング機能とアウェアネス機能が含まれます。製品オプション 1 には、Web 会議機能が含まれます。Sametime のすべてのバージョンを使用できるユーザーは、両方のオプションを入手し、インストールできます。

Sametime サーバーにログインしているメンバーは、Sametime の「在席確認」テクノロジーを使用して、オンライン (ログイン) 中の他の全メンバーを確認できます。オンラインユーザーの名前が、Sametime アプリケーションの在席者リストに表示されます。コミュニティのメンバーはこの在席者リストを使用して、インスタントメッセージングセッションによる会話を行えます。すなわち、チャット、画面共有、ホワイトボード、QA への質問と回答、他のユーザーへの Web ページの送信、およびオーディオ/ビデオの機能を備えたインスタントミーティングを開始できます。

在席者リストは他のオンラインユーザーの接続状況の即時の確認や即時のコラボレーションをサポートしますが、Sametime サーバー上の Sametime ミーティングセンターは、コミュニティのメンバーのために中心的な会議場所を提供します。ユーザーはミーティングセンターでミーティングを予約し、特定の時間に開始できます。ユーザーは予約したミーティング時刻に Web ブラウザを使用して Sametime ミーティングセンターにアクセスして、ミーティングに参加します。

主な Sametime クライアントアプリケーションには、IBM Lotus Sametime Connect クライアントと Sametime ミーティングルームクライアントの 2 つがあります。Sametime Connect クライアントは、コミュニティの選択されたメンバーのうちオンライン中のメンバーを表示する在席者リストを備えています。ユーザーは Sametime Connect から、インスタントメッセージを送信するか、コミュニティの他のオンラインメンバーとの間でインスタントミーティングを開始して、コラボレーションを

行えます。Sametime Connect には、デスクトップ用 Sametime Connect とブラウザ用 Sametime Connect という、若干異なる 2 つのバージョンがあります。

Sametime ミーティングルームクライアントは、ユーザーがインスタントミーティングや予約済みのミーティングに参加するたびにユーザーの Web ブラウザにロードされて実行される Java(TM) アプレットです。Sametime ミーティングルームクライアントには、インタラクティブなオーディオとビデオを含めて、Sametime の全コラボレーションアクティビティをサポートするコンポーネントが含まれています。

Sametime は、多数の表示専用ユーザー (または視聴メンバー) が少数のユーザー (またはプレゼンタ) によるミーティングの状況を見ることができるようになる、ブロードキャストテクノロジーをサポートしています。ブロードキャストテクノロジーは、1 人のユーザー、または少数のユーザーグループが、多数の視聴者に対してプレゼンテーションを行うようなミーティングの場合に特に便利です。視聴メンバーは、Sametime ブロードキャストクライアントと呼ばれる別個の受信専用の Java クライアントを使用してブロードキャストミーティングを見ます。

各 Sametime サーバーには、Sametime コミュニティを構成するすべてのサーバーに関する情報を保持する IBM Lotus Domino(TM) ディレクトリが含まれています。Sametime サーバーは、ユーザー認証に Domino ディレクトリを使用するよう設定することも、LDAP ディレクトリを収容する Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーのクライアントとして運用することもできます。

Sametime では、Sametime サーバー上のサービスと、クライアントアプリケーションとの間で対話が行われます。Sametime サービスには、コミュニティサービス、ミーティングサービス、ブロードキャストサービス、Domino/Web アプリケーションサービス、オーディオ/ビデオサービスがあります。Sametime サーバーに関連する主な管理タスクには、ディレクトリの管理、Sametime クライアントから Sametime サーバーへの接続の確保、Sametime サービスの設定、およびサーバーのモニタリングなどがあります。

Sametime の管理者は Web ベースの Sametime 管理ツールを使用します。このツールは Web ブラウザで実行され、Sametime サーバーのホームページの [サーバーの管理] リンクから使用できます。

Instant Messaging Limited Use version とは

Sametime の Instant Messaging Limited Use version は、IBM Sametime の完全な製品から機能を限定して提供するバージョンです。Sametime の完全版には、在席確認、インスタントメッセージング、Web 会議の機能があります。Sametime の Instant

Messaging Limited Use version は、在席確認とインスタントメッセージングの機能を提供しますが、Web 会議の機能はサポートしません。

Sametime の Instant Messaging Limited Use version と完全版は、Lotus Sametime for i5/OS 製品 (5724J23) の別個の製品オファリングです。Instant Messaging Limited Use version のライセンスをお持ちのお客様は、Lotus Sametime の *BASE 製品オプションを入手し、インストールできます。Sametime の完全版のライセンスをお持ちのお客様は、*BASE とオプション 1 を入手し、インストールできます。

Sametime の Instant Messaging Limited Use version では、クライアントアプリケーションとサーバーアプリケーションの対話によって、在席確認とインスタントメッセージングを利用したユーザーコミュニティのリアルタイムのコラボレーションが実現します。

Sametime サーバーにログインしているメンバーは、Sametime の「在席確認」テクノロジーを使用して、オンライン (ログイン) 中の他の全メンバーを確認できます。オンラインユーザーの名前が、Sametime アプリケーションの在席者リストに表示されます。コミュニティのメンバーは、この在籍者リストからインスタントメッセージングセッションによる会話を行えます。インスタントメッセージングセッションは、2 人のユーザーのみの 2 方向のセッションにすることも、3 人以上のユーザーが参加するチャット会議にすることもできます。

Sametime の Instant Messaging Limited Use version で提供される主要なクライアントアプリケーションは、ブラウザ用 Sametime Connect クライアントです。このクライアントは、ユーザーの Web ブラウザで実行される Java(TM) アプレットです。Sametime Connect は、コミュニティの選択されたメンバーのうちオンライン中のメンバーを表示する在席者リストを備えています。ユーザーは、Sametime Connect からインスタントメッセージを送信することによって、コミュニティの他のメンバーとコラボレーションを行えます。クライアントには、ディレクトリのブラウズ機能とプライバシー保護機能もあります。ユーザーは、Sametime サーバーのホームページ上のリンクを選択することによって、このクライアントを Web ブラウザにロードします。

このバージョンの Sametime は、Domino 7 Server と統合することもでき、Lotus Notes Client や Domino Web Access などの Domino アプリケーションに、インスタントメッセージングと在席確認の機能を提供します。Domino と Sametime を統合すると、Domino Server 上のクライアントアプリケーションは Sametime サーバーに接続し、在席確認とインスタントメッセージングの機能を利用できます。Sametime サーバーと Domino Server の統合の詳細については、www.lotus.com/ldd/doc の Web サイトから入手できる Domino 関連資料を参照してください。

4 インストールガイド

Sametime Client は、Sametime サーバー上のコミュニティサービスと対話し、在席確認とインスタントメッセージングの機能にアクセスします。コミュニティサービスでは、Sametime の在席確認とインスタントメッセージングのすべての機能をサポートします。Sametime の Instant Messaging Limited Use version は、Domino Server 上にインストールされ、HTTP サービス、Domino/Web アプリケーションサービス、および Domino Server が備える Domino ディレクトリを利用します。

Sametime サーバーは、LDAP ディレクトリを格納する Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーのクライアントとして稼動するように設定することもできます。LDAP ディレクトリを使用する環境では、LDAP ディレクトリをコミュニティユーザーのリポジトリとして利用できます。

Sametime の管理者は Web ベースの Sametime 管理ツールを使用します。このツールは Web ブラウザで実行され、Sametime サーバーのホームページの [サーバーの管理] リンクから使用できます。Sametime サーバーに関連する主な管理タスクには、ディレクトリの管理、Sametime クライアントから Sametime サーバーへの接続の確保、Sametime サービスの設定、およびサーバーのモニタリングなどがあります。

Sametime 7 for i5/OS の新機能

ここでは、注意が必要な Sametime 7 for i5/OS の重要な変更について説明します。

2つの製品オフアリング

製品は、Lotus Sametime の2つの別個の製品オフアリングを提供するためにパッケージ構成を変更しました。

- Lotus Sametime、Instant Messaging Limited Use version

Lotus Sametime、Instant Messaging Limited Use version のライセンスをお持ちのお客様は、Lotus Sametime (5724J23) の *BASE 製品オプションのみを入手し、インストールできます。この版では、インスタントメッセージングをサポートする Sametime サーバーの作成と設定を行えますが、Web 会議の機能はありません。

- Lotus Sametime

Lotus Sametime のライセンスをお持ちのお客様は、Lotus Sametime の *BASE とオプション 1 を入手し、インストールできます。この版では、インスタントメッセージングと Web 会議の両方をサポートする Sametime サーバーの作成と設定を行えます。

名称の変更

この製品の以前のリリースの名称は、IBM Lotus Instant Messaging and Web Conferencing 6.5.1 for iSeries でした。このリリースでは、製品の名称が IBM Lotus Sametime 7 for i5/OS に変更されました。

製品 ID の変更

以前のリリースの製品 ID は 5733LST でした。Lotus Sametime 7 の新しい製品 ID は 5724J23 です。

i5/OS プラットフォーム上の Sametime について

i5/OS プラットフォーム上に Lotus Sametime を配置する場合、次の点を考慮する必要があります。

- Lotus Sametime 7.0 for i5/OS の製品 ID は 5724J23 です。Sametime の Instant Messaging Limited Use version のみを使用するには、*BASE 製品オプションをインストールします。Sametime の完全版を使用するには、*BASE とオプション 1 の両方をインストールします。
- Lotus Sametime for i5/OS は、同じ i5/OS ロジカルパーティション (LPAR) に完全版の Sametime サーバーと Instant Messaging Limited Use version のサーバーが共存する「混合環境」をサポートします。詳細については、「完全版の Sametime サーバーが含まれている環境で Limited Use version の Sametime を使用する」を参照してください。

また、Lotus Sametime for i5/OS は、Instant Messaging Limited Use version のサーバーから完全版の Sametime サーバーへの変換と、その逆方向の変換もサポートしています。詳細については、「既存のサーバーを Limited Use version または完全版の Sametime に変更する」を参照してください。

- Lotus Sametime for i5/OS は、同じ LPAR 上で複数の Sametime サーバーをサポートします。これは、複数の Domino パーティションサーバーを作成して、それぞれを Sametime サーバーとして設定することで可能になります。この環境で Sametime が正しく機能するには、TCP/IP が注意深く設定されている必要があります。詳細については、technote 7002647 「Sametime for iSeries: Multiple Sametime Servers on Same System」を次の Web サイトで参照してください。

<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=203&uid=swg27002647>

- 同じ LPAR に Sametime サーバーと Lotus QuickPlace サーバーを設定することができますが、別々の Domino パーティションサーバー上で稼働させなければなりません。ポートの競合を避けるには、第 2 章の「TCP/IP 環境の設定」の説明に従って適切にサーバーを設定してください。Sametime と QuickPlace の統合の詳細については、『IBM Lotus QuickPlace Installation and Upgrade Guide』を参照してください。
- Sametime for i5/OS で使用する Domino Server をインストールし、管理するには、iSeries ナビゲーターの利用をお勧めします。iSeries ナビゲーターは、IBM iSeries Client Access Express(TM) for Windows の一部であり、サーバーに接続されたワークステーション上で実行します。Client Access Express に必要なすべてのソフトウェアは、システムにプリロードされた i5/OS(R) ソフトウェアに含まれています。iSeries ナビゲーターと Client Access Express のインストールの詳細は、次の Web サイトで、iSeries 情報センターの iSeries ナビゲーターのセクションを参照してください。アドレスは次のとおりです。
<http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter>
- Sametime 7 は、Domino 7.0 および Domino 7.0.x 以降のリリースでサポートされます。Domino のこれらのバージョンはすべて、マルチバージョン機能を備えています。これは、同じ LPAR で複数の Domino バージョンを実行できることを意味します。ただし、1 つの LPAR にインストールできる Sametime のバージョンは 1 つだけです。Domino のマルチバージョン機能の詳細は、Lotus のマニュアル『Domino 7 for i5/OS インストールガイド』の「Domino for i5/OS のマルチバージョン機能の使用」の項を参照してください。

Lotus Sametime の要件

Lotus Sametime をインストールする前に、システムのハードウェアとソフトウェアの要件を確認してください。また、デスクトップ用の Sametime Connect をインストールする場合は、Sametime Connect に必要なワークステーションのハードウェアとソフトウェアをあらかじめインストールしておいてください。

以降のセクションでは、ご使用のシステムが Sametime のハードウェア要件、ならびに i5/OS プラットフォームのソフトウェア要件を満たしていることを確認する方法を説明します。

Sametime のインストールおよび設定に必要な i5/OS の権限

i5/OS では、機能やデータへの不正アクセスを防止するために、多くのセキュリティ上の制約が設けられています。Sametime をインストールおよび設定する管理者は、必要な権限を備えたユーザープロフィールを使用してシステムにサインオンする必要があります。

Sametime ソフトウェアをインストールするには、ユーザープロフィールに次のような権限が必要です。

- すべてのオブジェクトへのアクセス (*ALLOBJ)
- セキュリティ管理 (*SECADM)

Sametime サーバーを設定するには、ユーザープロフィールに次のような特殊な権限が必要です。

- すべてのオブジェクトへのアクセス (*ALLOBJ)
- システム設定 (*IOSYSCFG)
- ジョブ制御 (*JOBCTL)

■ iSeries ナビゲーターを使用してユーザープロフィールを確認する

i5/OS のセキュリティ管理者は、Sametime をインストールおよび設定するために必要な権限を持っています。セキュリティ管理者以外のユーザーは、自分のユーザープロフィールに必要な権限が設定されているかどうかを、次の手順を実行して確認してください。

Sametime をインストールするシステムを開きます。

- [ユーザーおよびグループ] をクリックします。
- [すべてのユーザー] をクリックします。
- プロフィールを確認するユーザーの名前 (ID) を右クリックします。
ユーザーID は、ユーザープロフィール名です。
- [プロパティ] をクリックします。
- [機能] をクリックします。

ユーザープロフィールで許可されている権限が [特権] タブに表示されます。

ユーザープロフィールに必要な権限が設定されていないときは、Sametime サーバーのインストールと設定、またはユーザープロフィールへの必要な権限の追加をセキュリティ管理者に依頼します。

■コマンドを使用してユーザープロフィールを確認する

i5/OS のセキュリティ管理者は、Sametime をインストールおよび設定するために必要な権限を持っています。セキュリティ管理者以外のユーザーは、ユーザープロフィールの表示 (DSPUSRPRF) コマンドを使用して、自分のユーザープロフィールに必要な権限が設定されているかどうか確認してください。ユーザープロフィールを確認するには、次の手順を実行します。

メモ i5/OS コマンドインターフェースを、システムと通信中のワークステーションの 5250 エミュレータウィンドウなどからシステムにサインオンして起動します。コマンドを入力するには、====> 記号の後の任意の行にコマンドを入力して [Enter] キーを押します。コマンドについての詳しい説明を表示するには、コマンド名 (たとえば、DSPUSRPRF) を入力して、[Enter] キーではなく [F4] キーを押します。

1. 次の OS/400 コマンドを入力して、[Enter] キーを押します。

DSPUSRPRF ユーザー ID

ユーザーID は、ユーザープロフィール名です。

2. [PageDown] キーを押し、特殊権限のフィールドを表示します。

ユーザープロフィールに必要な権限が設定されていないときは、Sametime サーバーのインストールと設定、またはユーザープロフィールへの必要な権限の追加をセキュリティ管理者に依頼します。

インストール済み i5/OS ソフトウェアの確認方法

インストール済みのソフトウェアを確認するには、iSeries ナビゲーター (i5/OS 用のグラフィカルユーザーインターフェース) を使用するか、コマンドを入力します。

■オペレーションナビゲーターを使用してインストール済みソフトウェアを確認する

iSeries ナビゲーターを使用する際に、設定およびサービスのプラグインがインストールされている場合は次の手順に従います。

1. Sametime をインストールするシステムを開きます。
2. [構成とサービス] をクリックします。
3. [ソフトウェア] をクリックします。
4. [インストール済みプロダクト] をクリックします。

右側のペインに、システムにインストールされている製品のリストが表示されます。

現在使用している Domino のリリースを確認するには以下の手順に従います。

5. **[製品]** 列から 5733LD7 (7.0.x リリース)、5733LD6 (6.0.x リリース)、または 5733L65 (6.5.x リリース) を探します。
6. **[説明]** および **[オプション]** 列を見て、インストールされている Domino のリリースを確認します (複数のリリースがインストールされている場合もあります)。Sametime 7 の場合は、Domino 7.0.x (5733LD7) がインストール済みである必要があります。

■インストール済みの Program Temporary Fix の確認

システム上にインストールされた Program Temporary Fix (PTF) を確認する手順は、次のとおりです。

1. iSeries ナビゲーターを起動します。
2. Sametime をインストールするシステムを開きます。
3. **[構成とサービス]** をクリックします。
4. **[修正インベントリ]** をクリックします。
5. **[すべての修正]** をクリックします。

画面の右側に、システムにインストールされたすべての PTF ファイルが表示されます。

■コマンドを使用してインストール済みソフトウェアを確認する

現在システムにインストールされているソフトウェアを確認するには、次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。

「DSPSFWRSC」

[資源 ID] 列にライセンスプログラム番号が表示されます。[F11] キーを押すと、ソフトウェアのバージョンとリリースが表示されます。

Domino の 1 つ以上のリリース (たとえば、5733LD7、5733LD65、5733LD6) がサーバーにインストールされている場合があります。Sametime 7 の場合は、5733LD7 がインストール済みである必要があります。

システムにインストールされている Sametime のバージョンの確認

次の表に、Lotus Sametime for i5/OS の各バージョンに対応する製品番号とオプション番号を示します。

Sametime のバージョン	製品番号	オプション番号	バージョン/リリース/モディフィケーション
Lotus Sametime 7.0	5724J23	*BASE およびオプション 1	V7R0M0
Lotus Sametime 7.0、Instant Messaging Limited Use version	5724J23	*BASE	V7R0M0
Lotus Instant Messaging and Web Conferencing 6.5.1	5733LST	*BASE	V6R5M1
Lotus Sametime 3.1	5733LST	*BASE	V3R1M0
以前のリリース	5733LST	*BASE	V3R0M0 または V2R5M0

Sametime サーバーの要件

Lotus Sametime for i5/OS には、次のハードウェアとソフトウェアが必要です。別途記載がある場合を除き、これらの要件は Sametime の完全版と Instant Messaging Limited Use version の両方に適用されます。

Domino と i5/OS に新しいリリースが提供されると、要件が追加される可能性があります。最新の情報については、次の Web サイトで『Lotus Software for iSeries Compatibility Guide』を参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/domino/domino6/releasesupport.pdf>

■ハードウェア

- IBM i5/OS V5R3 を実行できる IBM eServer iSeries(TM) または IBM eServer(TM) i5 サーバーモデル
- 512MB 以上のメモリ (1GB を推奨)
- 500 MB 以上の空きディスク容量 (1 GB を推奨)
- 最低 4 ディスクドライブ (アーム)
- Sametime を英語以外の言語で使用するには、使用するサーバーにさらに 150 MB の空きディスク容量が必要です。

メモ 上記の値は一般的なガイドラインです。環境が違くと要件も異なる可能性があります。推奨されるモデルとシステムのサイジングの詳細は、Sametime for iSeries の Web サイトを参照してください。アドレスは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/eserver/series/sametime/sysreq.html>

■ ソフトウェア

- IBM i5/OS、5722SS1、バージョン 5 リリース 3 以上
- OS/400 ホストサーバー、5722SS1 オプション 12
- TCP/IP Connectivity Utilities for iSeries、5722TC1
- IBM Developer Kit for Java、5722JV1、*BASE およびオプション 6、1.4 JDK
- OS/400 QShell インタープリタ、5722SS1 オプション 30
- OS/400 - ポータブルアプリケーションソリューション環境 (PASE)、5722SS1 オプション 33

この製品オプションは、Sametime の完全版をインストールし、ホワイトボードの内容を保存する機能を利用する場合に必要です。

- Cryptographic Access Provider 128-bit for iSeries、5722AC3
Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを有効にして Sametime サーバーとの接続を暗号化する場合は、この製品オプションが必要です。これは、Sametime サーバーのすべてのインストールに推奨されます。5722AC3 は、i5/OS V5R3 のすべてのオーダーに含まれます。この製品を i5/OS より前のバージョンにインストールする場合は、V5R3 にアップグレードする必要があります。
- 必要なすべてのシステム PTF (最新の Java グループ PTF 含む)
必要な PTF に関する最新の詳細情報は、technote 1089996 「Sametime for iSeries: What System Fixes are Required?」を参照してください。

<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=203&uid=swg21089996>

technote では、最新の Java グループ PTF をインストールすることが推奨されています。ここで示された前提条件となるすべてのソフトウェアをインストールまたはアップグレードした後で、Java グループ PTF (特に 5722JV1 オプション 6 と、5722AC3 のバージョン V5R3) をインストールまたは再インストールする必要があります。

Sametime Conversion Services の導入など、Sametime のその他の設定の追加要件については、第 8 章の「Sametime のオプション設定」を参照してください。

■ Domino ソフトウェア

- Sametime 7 for i5/OS では、Domino for i5/OS リリース 7.0 またはそれ以上の Domino 7.0.x リリースが必要です。

メモ インストール済みの Domino のリリースを確認するには、「インストール済み i5/OS ソフトウェアの確認方法」を参照してください。

■ 英語以外の言語における Domino の考慮事項

インストールする Sametime に対応した言語の Domino for i5/OS をインストールしてください。たとえば、Sametime のフランス語バージョンをインストールする場合は、Domino の英語バージョンに加えて、Domino ランゲージパックからフランス語の言語ファイルをインストールします。

■ iSeries ナビゲーターに関する追加要件

iSeries ナビゲーターを使用して Sametime サーバーを管理するには、システムに次のソフトウェアがインストールされている必要があります。

- Client Access Express for Windows、5722XE1
- Client Access Windows ファミリ、5722XW1
- iSeries ナビゲーター用の Lotus Domino プラグイン

詳しくは、次の Web サイトの IBM eServer iSeries Information Center で確認してください。

<http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter>

■ サーバーの互換性

- 同じコミュニティ内で複数の Sametime サーバーを稼働させる場合、すべてのサーバーで Sametime 7 または Sametime 6.5.1 のいずれかを実行する必要があります。Sametime 3.0、3.0a および 3.1 との相互運用性は、アップグレード中のみサポートされます。詳細については、「Sametime 7 へのアップグレードについて」を参照してください。
- QuickPlace サーバーをご使用の Sametime 7 サーバーと統合する場合は、QuickPlace サーバーでバージョン 7 を実行する必要があります。QuickPlace 6.5.1 は Sametime 7 との相互運用性をサポートしていません。詳細については、『IBM Lotus QuickPlace Installation and Upgrade Guide』を参照してください。
- 同じシステム上で、Sametime および Lotus QuickPlace を実行する場合は、次の Web ページの technote 1091353 「Sametime for iSeries: Can Sametime and QuickPlace Be Installed on the Same System?」を参照してください。
<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=203&uid=swg21091353>
- Session Initiated Protocol (SIP) を使用する場合は、Sametime 7 に付属の SIP コネクタを使用する必要があります。iSeries の統合 SIP コネクタカスタンダードアロンの SIP コネクタのいずれかを使用できますが、SIP が使用可能な各 Sametime コミュニティでは Sametime 7 バージョンを使用する必要があります。

■ 複製について

Sametime 環境で複製機能を使用する場合は、サーバー間で Sametime 設定データベース (stconfig.nsf) を複製しないでください。

Sametime Client の要件

Sametime ユーザーのワークステーションには次のものがが必要です。

■ プラットフォーム

- デスクトップ用 Sametime Connect -- Windows 2000 Professional (SP4)、Windows XP (SP1)
- Macintosh デスクトップ用 Sametime Connect -- Macintosh OSX 10.3.x および 10.4.x

■ Web ブラウザ

- Windows XP および Windows 2000 Professional 上の Internet Explorer 6.0
- Windows XP Professional および Windows 2000 Professional 3.0、NLD 9.0 (Novell Linux Desktop) 上の Mozilla 1.7.6
- Windows XP Professional および Windows 2000 Professional 3.0、NLD 9.0 (Novell Linux Desktop) 上の Mozilla Firefox 1.0.1

■ Java JDK/JRE

- Sun JDK および JRE 1.4.2
- Sun JRE 1.4.2 以上 (Linux 版)

メモ Microsoft VM は Sametime Client ではサポートしていません。Sametime 7.0 リリースを使用する場合、Sametime Client では、ユーザーが Microsoft VM のみをインストールしていても問題は発生しません。しかし、これは将来のリリースには適用されません。Sametime Client コンピュータに Sun または IBM JVM 1.4.2 をインストールする必要があります。

■ Macintosh のデスクトップ用 Sametime Connect の JVM 要件

- JVM 1.4.2 (Macintosh OSX 10.3.x 版)
- JVM 1.4.2 (Macintosh OSX 10.4.x 版)

メモ Microsoft Internet Explorer 6.0 で Sametime 7 システム管理ツールを実行する場合、Microsoft Internet Explorer で次の設定を行ってください。これらの設定は、Microsoft Internet Explorer がインストールされているコンピュータがクライアントかサーバーかにかかわらず必要です。

1. Microsoft Internet Explorer で、**[ツール] - [インターネットオプション]** メニュー項目を選択します。
2. **[詳細設定]** タブを選択します。
3. **[HTTP 1.1 を使用する]** オプションからチェックマークをはずします。

その他の詳細

Sametime サーバーをインストールして設定する前に、CD-ROM に収録されている Readme ファイルと IBM Lotus Sametime for i5/OS の Web サイトに掲載されている情報をお読みください。このサイトには、インストールに関するヒントやサイジングに関する推奨事項など、新しい情報が順次追加されています。アドレスは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/eserver/iserries/sametime> (英語)

この他に、次の情報も参考になります。

- Sametime のすべての文書はオンラインで利用できます。Lotus Sametime の developerWorks 製品ページには、記事、ダウンロード、ツールキット情報および Sametime Forum へのリンクなど、開発者や管理者にとって役立つヘルプや追加情報が記載されています。Lotus Sametime 製品ページは、次の Web サイトからアクセスできます。

<http://www.ibm.com/developerworks/lotus/products>

i5/OS プラットフォームの Sametime に固有の情報については、Lotus Sametime for i5/OS の製品情報を選択します。すべてのプラットフォームに関連する一般的な情報については、Lotus Sametime の製品情報を選択します。Sametime ツールキットのヘルプへのリンクも使用できます。

- Sametime の資料の大部分は、Lotus Sametime for i5/OS コンポーネント CD の /Docs ディレクトリ内に収容されています。
- Lotus Sametime のホームページには、Sametime の開発者用ツールに関する最新情報や、オンラインアウェアネスとリアルタイムコラボレーションを実現するために Sametime で使用されるプロトコルなど、Sametime 製品の情報や開発者向けの情報が掲載されています。この Web サイトでは、ホワイトペーパー、レビューア用ガイド情報、一般的な問題と解決策、Sametime の機能や特長に関するニュースレターなどを参照できます。アドレスは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/lotus/sametime> (英語)

- Lotus のマニュアルの『Domino 7 for i5/OS インストールガイド』には、i5/OS での Domino 7 Server の設定と管理に関する詳細情報が記載されています。システムで TCP/IP が正しく設定され、機能しているかどうかを確認する方法や、i5/OS の初心者ユーザー向けの基本的な事柄について説明しています。このマニュアルは Domino の製品 CD に入っています。また、以下の Web アドレスの Notes/Domino 製品ページで表示またはダウンロードすることもできます。

<http://www.ibm.com/developerworks/lotus/products/>

Domino for i5/OS に関するその他の情報は、IBM Domino for i5/OS の Web サイトに掲載されています。アドレスは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/eserver/series/domino> (英語)

- IBM eServer iSeries Information Center では、TCP/IP のインストール、設定、および使用に関する詳細情報が入手できます。その他に、Client Access Express と iSeries ナビゲーターの概要情報も収録されています。情報センターの最新バージョンは以下の Web サイトから入手できます。

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

- Lotus の technotes には、このマニュアルが出版された当時には記載されていない最新の情報が記載されています。ある特定の technotes を検出するには、technotes 番号を検索するか、キーワードを入力して technotes を検索します。Technotes へは、以下の Web アドレスからのアクセス可能です。

<http://www.ibm.com/software/lotus/support>

第 2 章 TCP/IP 環境の設定

Sametime サーバーは、必要に応じて 1 つ以上の特定の TCP/IP アドレスを使用できるように設定してください。Sametime サーバーがシステム上の他のタスクと TCP/IP ポートを共有しないようにする必要があります。本章では、TCP/IP の設定の確認、サーバー間の競合の解決、Sametime サーバーの設定に必要な TCP/IP 情報の収集の手順について説明します。接続性の問題の詳細は、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』(sthelppad.nsf) で Sametime の接続性の設定について参照してください。

Sametime を使用するために TCP/IP 環境を設定する場合は、次の作業を行います。

- ホストテーブルのエントリの確認
- 既存の Domino Server の設定の確認
- Sametime サーバーの TCP/IP アドレスの選択
- TCP/IP アドレスの追加
- ホストテーブルの更新
- ドメインネームサーバーの更新
- 既存の Domino Server の設定の更新
- IBM HTTP サーバーの設定の更新

コマンドのみを使用して同様の手順を実行するには、「付録 B コマンドを使用した TCP/IP 環境の設定」を参照してください。

ホストテーブルのエントリを確認する

ホストテーブルのエントリを確認する手順は、次のとおりです。

1. サーバーのホストテーブルを見つけてみます。
 - iSeries ナビゲーターを起動します。
 - Sametime をインストールするシステムを開きます。
 - [ネットワーク] をクリックします。
 - [TCP/IP 設定] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
 - [TCP/IP プロパティ] パネルで [ホストテーブル] をクリックします。

2. 各ホスト名および対応する TCP/IP アドレスを記録しておきます。この情報は後で必要になります。

既存の Domino Server の設定を確認する

メモ 使用しているシステムで Domino Server が設定されていない場合は、このセクションの手順を省略して次に進んでください。

現在 Domino Server で使用されている TCP/IP アドレスを確認する手順は、次のとおりです。

1. i5/OS コマンドインターフェースから、システムにサインオンします。

メモ 以降の手順では、Domino Server がすでに起動していることを想定しています。

2. 次のコマンドを入力して、各 Domino Server の現在の TCP/IP アドレスを確認します。

WRKDOMCSL サーバー名

サーバー名は Domino Server の名前です。

3. Domino コンソールの画面で次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。

sh port tcpip

4. [F5] キーを押して画面表示を更新します。

ポート TCP/IP の表示コマンドを実行すると、Domino Server で使用されている TCP/IP アドレスが表示されます。

- Domino Server が TCP/IP アドレスを 1 つのみ使用している場合、TCP/IP ローカルアドレスがポート番号 (通常は 1352) とともに表示されます (10.1.2.3:1352 など)。
- Domino Server が有効な TCP/IP アドレスをすべて使用している場合、特定の TCP/IP アドレスが表示されるのではなく、ローカルアドレスとして *:1352 と表示されます。

5. 各 Domino Server の TCP/IP アドレスを記録しておきます。この情報は後で使用します。

Sametime サーバーの TCP/IP アドレスを選択する

ここでは、システムで定義済みの TCP/IP アドレスを確認し、Sametime サーバーで使用するアドレスを決定します。また、必要に応じて、サーバー間の競合を回避するために追加の TCP/IP アドレスを設定します。

1. TCP/IP インターフェースのリストを開きます。

- 必要に応じて iSeries ナビゲーターを起動します。
- Sametime を追加するシステムを開きます。
- [ネットワーク] をクリックします。
- [TCP/IP 設定] をクリックします。
- [インターフェース] をクリックします。

右側のペインに、iSeries サーバーの各 TCP/IP アドレスに関する情報が表示されます。

2. ホストテーブル、または `sh port tcpip` コマンドで調べて記録しておいた各 TCP/IP アドレスが現在定義されていることを確認します。

3. 次のサーバーやインスタンスを排他的に使用する場合に、それぞれに TCP/IP アドレス (複数可) が割り当てられるようにするため、システムに十分な数の TCP/IP アドレスが設定されていることを確認します。

- Sametime サーバー
 - 既存の各 Domino Server
 - システムで実行中の IBM HTTP サーバーの各インスタンス
- メモ Domino ポートのマッピングは使用しないでください。

4. 追加の TCP/IP アドレスとホスト名を割り当てる必要があるときは、ネットワーク管理者に連絡します。

5. ドメインネームサーバー (DNS) にも新しいホスト名が追加されていることを確認します。

6. Sametime サーバーに割り当てる TCP/IP アドレスを選択します。

7. 既存の各 Domino Server と IBM HTTP サーバーの各インスタンスに割り当てる TCP/IP アドレスを決定します。

8. この情報は記録しておいてください。後でこの情報に基づいて、既存のサーバーに固有の IP アドレスが割り当てられていることを確認します。これにより、既存のサーバーと Sametime サーバーが使用するポートの競合を回避します。

追加の TCP/IP アドレスを定義する必要がない場合は、「ホストテーブルを更新する」に進んでください。

TCP/IP アドレスの追加

メモ 追加の TCP/IP アドレスを割り当てる必要がない場合は、このセクションの手順を省略して次に進んでください。

使用しているサーバーに TCP/IP アドレスを追加する手順は、次のとおりです。

1. 必要に応じて iSeries ナビゲーターを起動します。
2. Sametime を追加するシステムを開きます。
3. [ネットワーク] をクリックします。
4. [TCP/IP 設定] をクリックします。
5. [インターフェース] を右クリックして、[新しいインターフェース] を選択します。
6. [ローカル・エリア・ネットワーク] を選択します。
7. ウィザードの指示に従い TCP/IP インターフェースを設定します。ウィザードでの操作について不明な点がある場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックします。

ホストテーブルを更新する

ここでは、Sametime サーバーのホストテーブルにエントリを追加します。必要に応じて、既存の Domino Server のエントリも更新します。

Sametime サーバーのホストテーブルのエントリを追加する手順は、次のとおりです。

1. ホストテーブルを開きます。
 - iSeries ナビゲーターを起動します。
 - Sametime をインストールするシステムを開きます。
 - [ネットワーク] をクリックします。
 - [TCP/IP 設定] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
 - [TCP/IP 設定プロパティ] 画面で [ホスト・テーブル] タブをクリックします。
2. [追加] ボタンをクリックします。
3. [IP アドレス] フィールドに、Sametime サーバーに割り当てた TCP/IP アドレスを入力します。たとえば、10.1.2.4 と入力します。
4. [ホスト名] フィールドに、Sametime を追加する Domino Server の完全修飾サーバー名を入力します。たとえば、stdom1.acme.com と入力します。

メモ 1つのIPアドレスには複数のホスト名を追加できます。短縮名を指定するときには、最初に完全修飾サーバー名を指定しておく必要があります。完全修飾サーバー名を、Sametime サーバーのIPアドレスに関連付けられている名前のリストの最初に指定していない場合は、すべてのエントリを削除し、適切な順序で指定し直す必要があります。

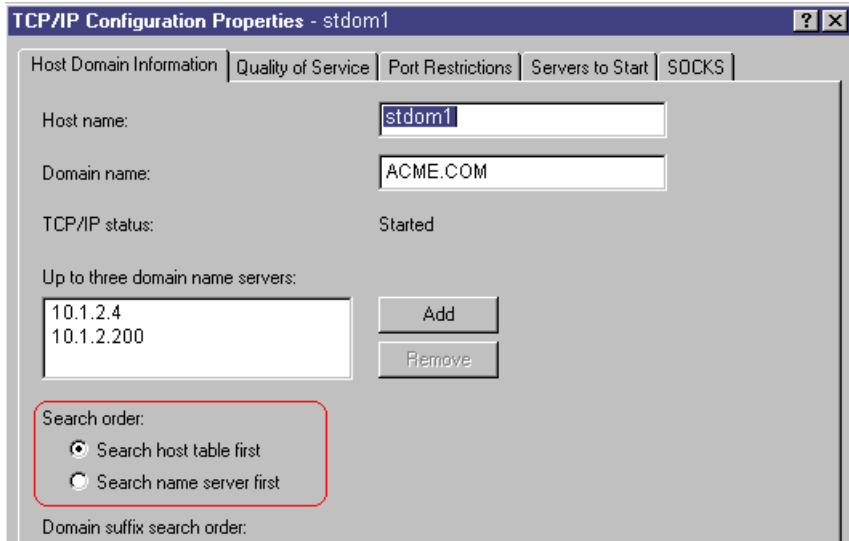
5. 必要に応じて **[説明]** フィールドに説明を入力します。
 6. **[OK]** をクリックすると、サーバーのホストテーブルにエントリが追加されます。
 7. **[OK]** をクリックすると、**[TCP/IP 設定プロパティ]** ウィンドウが閉じます。
- 既存の Domino Server のホストテーブルのエントリが正しく定義されていること、およびそれらのエントリが「Sametime サーバーの TCP/IP アドレスを選択する」で使用される TCP/IP アドレスと対応していることを確認します。

ドメインネームサーバーを更新する

追加のホスト名を定義したときは、TCP/IP 関連の管理者に連絡して、必ず新しいホスト名をドメインネームサーバー (DNS) に追加してください。

ホストテーブルの検索前に DNS を検索するように TCP/IP を設定した場合、追加の設定変更が必要な場合があります。次の手順に従い、TCP/IP 設定プロパティを確認してください。

1. iSeries ナビゲーターを起動します。
2. Sametime をインストールするシステムを開きます。
3. **[ネットワーク]** をクリックします。
4. **[TCP/IP 設定]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
5. 現在の **[検索順]** の値を確認します。



- [ホストテーブルを最初に検索] が選択されている場合はこれ以上必要な手順はありません。前の手順で、完全修飾ホスト名がローカルホストテーブルの最初にリストされるよう、実行済みです。
 - [ネームサーバーを最初に検索] が選択されている場合、使用している Sametime サーバーに関連付けられている IP アドレスの DNS に、完全修飾ホスト名が最初にリストされていることをネットワーク管理者に確認します。Sametime サーバーを正しく機能させるために、完全修飾ホスト名は、最初 (いかなる短縮名より前) にリストされる必要があります。または、TCP/IP 設定プロパティを [ホストテーブルを最初に検索] に変更します。
- 注意** [検索順] を変更した場合は、TCP/IP を停止して再起動することで、その変更を有効にします。

6. [OK] をクリックします。

既存の Domino Server の設定を更新する

メモ 使用しているシステムで Domino Server が設定されていない場合は、このセクションの手順を省略して次に進んでください。

ここでは、既存の各 Domino Server が、割り当てられた TCP/IP アドレスに正しく関連付けられていることを確認します。これによって、Sametime サーバーとの競合を回避できます。必要に応じて、既存の Domino Server の設定を変更してパーティション化を可能にし、固有の TCP/IP アドレスを指定します。

notes.ini ファイルを変更してサーバーの TCP/IP アドレスを変更した場合でも、サーバー文書ではその変更が反映されていない場合があります。この手順では、サーバー文書と notes.ini ファイルの両方が更新されます。

サーバーのプロパティを変更する必要があるかどうかを確認する

既存の各 Domino Server について、サーバーのプロパティを変更する必要があるかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. Domino Server のプロパティを開きます。
 - iSeries ナビゲーターを起動します。
 - [ネットワーク] をクリックします。
 - [サーバー] をクリックします。
 - [Domino] をクリックします。
 - iSeries ナビゲーターのメインウィンドウの右側のペインで、対象の Domino Server を右クリックして [プロパティ] を選択します。
2. [ネットワーク構成] をクリックします。

IP アドレスのフィールドに SYSTEM と指定されている場合は、その Domino Server がシステム上で使用可能なすべての TCP/IP アドレスを使用しているため、サーバーが 1 つの TCP/IP アドレスのみを使用するよう設定を変更する必要があります。
3. [サービス] タブをクリックします。

メモ システム上ですでに複数の Domino Server を使用している場合は、この手順を省略して次に進んでください。

使用可能なサービスのリストにパーティショニングが含まれていることを確認します。必要であれば、使用可能なサービスのリストにパーティショニングを追加します。
4. [OK] をクリックし、サーバーのプロパティを閉じます。

サーバーのプロパティを変更する

変更が必要な既存の各 Domino Server について、次の手順を実行します。

1. Domino Server が稼働している場合は、停止します。
 - iSeries ナビゲーターを起動します。
 - Sametime をインストールするシステムを開きます。
 - [ネットワーク] をクリックします。
 - [サーバー] をクリックします。

- **[Domino]** をクリックします。
 - 対象の Domino Server を右クリックし、**[停止]** を選択します。
- メモ Domino Server が停止するまで数分かかる場合があります。
2. iSeries ナビゲーターのメインウィンドウの右側のペインで、対象の Domino Server を右クリックして **[プロパティ]** を選択し、Domino Server のプロパティを開きます。
 3. パーティション化が有効になるように、必要に応じてサーバーの設定を変更します。
- メモ システム上ですでに複数の Domino Server を使用している場合は、この手順を省略して次に進んでください。
- **[サービス]** タブをクリックします。
 - 使用可能なサービスのリストにパーティショニングを追加します。
4. 必要に応じて、事前に選択した TCP/IP アドレスのみが Domino Server で使用されるようにネットワークの設定を変更します。
- **[ネットワーク構成]** をクリックします。
 - 変更する行をクリックします。
 - **[修正]** をクリックします。
 - **[IP アドレス]** フィールドで **[サーバーのホスト名を指定]** をクリックします。
 - Domino Server の完全修飾ホスト名を入力します。DNS はこのホスト名を、前に指定された TCP/IP アドレスと関連付けます。たとえば、`dommail.acme.com` と指定します。
- メモ このフィールドには TCP/IP アドレスを数値で入力しないでください。
- **[OK]** をクリックします。
5. iSeries ナビゲーターのメインウィンドウの右側のペインで、対象の Domino Server を右クリックして **[起動]** を選択し、Domino Server を起動します。
- メモ Domino Server が起動するまで数分かかる場合があります。
6. Domino Administrator を使用してサーバー文書内のサーバー設定を編集し、Domino HTTP サーバーが特定のホスト名に関連付けられるようにします。
- **[設定]** タブを選択します。
 - 左側のペインで、**[サーバー]** をクリックして **[すべてのサーバー文書]** を選択します。
 - 対象の Domino Server のサーバー文書を開き、**[サーバーの編集]** ボタンをクリックします。
 - **[インターネット]** タブを選択してから、**[HTTP]** タブを選択します。

- [ホスト名へのバインド] フィールドから [有効] を選択します。
 - [ポート] タブ、[インターネットポート] タブ、および [Web] タブを順に選択します。
 - HTTP 設定で、TCP/IP ポートのポート番号が指定されていることを確認します。デフォルトのポート番号は 80 です。
 - [保存して閉じる] をクリックします。
7. Domino Server を終了して再起動し、変更した内容を有効にします。
 8. Domino Server が再起動したら Notes Client または Web ブラウザからアクセスして、TCP/IP を使用して Domino Server にアクセスできるかどうかを確認してください。

IBM HTTP サーバーの設定を更新する

Sametime サーバーは、Domino HTTP サーバーを使用します。すでにシステム上で他のアプリケーション用に IBM HTTP サーバーを設定してある可能性もあります。その場合は、IBM HTTP サーバーの各インスタンスが、特定の TCP/IP に関連付けられていることを確認する必要があります。これによって、Sametime サーバーとの競合を回避できます。

IBM HTTP サーバーを使用していないことが確実な場合は、このセクションの手順を省略して「新しい Sametime 環境の設定」に進んでください。

この手順を完了して IBM HTTP サーバー設定を確認し、必要に応じて変更します。

1. IBM HTTP サーバーが稼働している場合は、停止します。
 - iSeries ナビゲーターを起動します。
 - Sametime をインストールするシステムを開きます。
 - [ネットワーク] をクリックします。
 - [サーバー] をクリックします。
 - [TCP/IP] をクリックします。
 - 右側のペインの [HTTP 管理] を右クリックして、[インスタンスの停止] - [すべて] を選択します。
2. HTTP 管理サーバーを起動します。
 - [ネットワーク] をクリックします。
 - [サーバー] をクリックします。
 - [TCP/IP] をクリックします。
 - 右側のペインの [HTTP 管理] を右クリックして、[開始] を選択します。

3. IBM HTTP サーバーの設定ページを開きます。

- Web ブラウザを起動します。
- 次の URL を入力します。

`http://mysystem:2001`

ここで、*mysystem* はご使用のシステムの名前です。

- **[IBM Web Administration for iSeries]** をクリックします。
- **[管理]** タブを選択します。
- **[HTTP サーバー]** タブを選択します。

4. 画面上部のメニューから設定を選択し、設定済みの IBM HTTP サーバーの各インスタンスに対して、次の項目を設定します。

- 左側のペインのリストから、**[一般サーバー構成]** を選択します。
- 右側のペインの **[使用するサーバーの IP アドレスとポート]** セクションで、IP アドレスとポートテーブルの設定を確認します。
- テーブルの 1 つの行の **[IP アドレス]** 列にアスタリスク (*) が表示されていたら、サーバーはすべての IP アドレスをリッスンします。該当の行を選択します。アスタリスク (*) をこのサーバーに対応する IP アドレスに置き換え、**[続行]** をクリックします。
- サーバーの IP アドレステーブルの更新を終えたら、**[適用]** をクリックして変更を保存します。

5. IBM HTTP サーバーの各インスタンスを、固有の IP アドレスを使用するように設定し終えた後再起動します。

- iSeries ナビゲーターを起動します。
- Sametime をインストールするシステムを開きます。
- **[ネットワーク]** をクリックします。
- **[サーバー]** をクリックします。
- **[TCP/IP]** をクリックします。
- 右側のペインで、**[HTTP 管理]** を右クリックして、**[インスタンスの起動]・[すべて]** を選択するか、起動するサーバーを選択します。

IBM HTTP サーバーの管理の詳細は、次の Web サイトの IBM eServer iSeries Information Center を参照してください。

<http://www.ibm.com/eserver/iserries/infocenter>

TCP/IP 環境の設定を終えたら、第 3 章の「新しい Sametime 環境の設定」に進んでください。

第 3 章 新しい Sametime 環境の設定

メモ Sametime の以前のリリースからアップグレードする場合は、第 4 章「既存の Sametime 環境をアップグレードするための準備」に進んでください。

本章では、システムに新しい Sametime 環境を設定する方法を説明します。

Sametime 環境を設定する場合は、Sametime を Domino Server に追加する必要があります。本章で説明する内容は次のとおりです。

- Sametime 設定オプション
- 新しい Domino ドメインで Domino Server を設定する
- 既存の Domino ドメインに Domino Server を設定する
- Notes Client と Domino Administrator のインストールと設定
- Sametime を追加するために Domino Server の設定を確認する
- Domino Server へのアクセスを確認する

メモ Sametime 環境で複製機能を使用する場合は、サーバー間で Sametime 設定データベース (stconfig.nsf) を複製しないでください。

Sametime 設定オプション

Sametime をインストールする予定の環境に Domino Server が設定されていない場合は、本章の次のセクション「新しい Domino ドメインで Domino Server を設定する」に進んでください。

Domino Server がすでに設定されている場合は、次のいずれかの方法で Sametime 環境を設定できます。

- 新しい Domino ドメインに新しい Domino Server (*FIRST) を設定し、そのサーバーに Sametime を追加する。
- 既存の Domino ドメインに Domino Server (*ADD) を追加し、そのサーバーに Sametime を追加する。

すでに実動状態にある Domino Server への Sametime の追加はサポートされていません。その代わりに、Sametime を実行する Domino Server を新たに作成してください。新しい Domino Server は、すでに実動状態にあるサーバーと同じシステムに追加できます。別々のサーバーを使用すると、それらのサーバーを個別に調整してパ

パフォーマンスを向上できます。さらに、保守のために 1 台のサーバーを終了しても、他のサーバーには影響しません。

以降のセクションでは、サポートされている **Sametime** 設定オプションについて説明します。

新しい Domino Server を設定し、Sametime を追加する

新しい Domino ドメインで新しい Domino Server を設定して Sametime を追加するときは、次のような状況になります。

- サーバーの作成時には、Domino ディレクトリにユーザーはいません。
- サーバーは特定の Domino ドメイン (Sametime コミュニティ) 内にあり、Sametime コミュニティの外部の Domino Server にはアクセスできません。外部のコミュニティで既存の Domino メールサーバーまたはアプリケーションサーバーとは、接続を確立できません。
- 新しいユーザーの追加は、Sametime 管理ツールを使用するか、LDAP ディレクトリサーバーに接続するか、自動登録を有効にしてユーザーが自分自身を登録可能にすることで、最初のサーバーの設定後に実行できます。Sametime 管理ツールまたは自動登録機能を使用すると Domino ディレクトリにユーザー文書が作成されますが、どちらの方法でも Sametime ユーザーの Notes ユーザー ID は作成されません。Sametime 管理ツールの使用法、または自動登録を可能にする方法の詳細は、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』(sthelppad.nsf) を参照してください。
- ユーザーは同じコミュニティに登録している他のユーザーのみをオンラインで表示できます。
- ミーティングサービスの負荷のバランスを保つために、追加の Sametime サーバーを作成して Sametime コミュニティに追加できます。また、コミュニティサービスの負荷のバランスを保つために、Sametime サーバー間でユーザーを分散できます。

既存の Domino ドメインに Domino Server を追加してから Sametime を追加する

既存の Domino ドメインに Domino Server を追加してから Sametime を追加すると、次のような状況になります。

- Domino ディレクトリのユーザーが Sametime サーバーのディレクトリに表示されます。各エントリに対してインターネットパスワードを指定しないと、これらのユーザーは Sametime を使用できません。この場合、同じユーザーの ID が重複して作成される可能性があるため、自動登録は有効にしないでください。

- Domino ディレクトリはドメイン内のサーバーによって共有されます。ユーザーは Sametime Web インターフェースからディレクトリにアクセスして、設定を変更できます。この方法で Domino Server を設定すると、Domino Server が属しているコミュニティで新しい Sametime サーバーを設定する場合に比べ、セキュリティ上の危険性ははるかに高くなります。
- 新しい Sametime ユーザーを追加するには、最初の設定後に Domino Server から Sametime サーバーにディレクトリをコピーします。Sametime サーバーから Domino Server への複製はしないでください。
- ユーザーは Domino ディレクトリに登録されているすべてのメンバーを表示して、それらのメンバーがオンラインになっているかどうかを確認できます。

新しい Domino ドメインで Domino Server を設定する

次の手順に従い、新しい Domino ドメインで Domino Server を設定します。

1. iSeries ナビゲーターの適切な設定ウィザードを起動します。これは、Domino をインストールしてあるかどうかによって異なります。

Domino をまだインストールしていない場合は、Domino の EZ-Setup ウィザードを使用して、システムに Domino ソフトウェアをインストールし、Domino Server を設定して、ワークステーションに Domino iSeries ナビゲーターのプラグインをインストールします。EZ-Setup ウィザードを起動するには：

- iSeries ナビゲーターを起動します。
- Domino を追加するシステムを起動します。
- [ネットワーク] をクリックします。
- [サーバー] を右クリックし、[Domino のインストールと設定] を選択します。

Domino をインストール済みの場合は、iSeries ナビゲーターを使用して新しいサーバーを設定します。新しい Domino Server の設定ウィザードを起動するには：

- iSeries ナビゲーターを起動します。
- Domino を追加するシステムを起動します。
- [ネットワーク] をクリックします。
- [サーバー] をクリックします。
- [Domino] を右クリックし、[新規 Domino Server] を選択して Java ベースの設定ウィザードを起動します。

2. ウィザードの各画面の指示に従って、新しい Domino Server を設定します。必ず、新しいドメインに Domino Server を設定するようにします。特定の設定に関してヘルプが必要な場合は、**[ヘルプ]** ボタンをクリックします。
3. 次の設定値を指定して Domino Server を設定します。
 - メモ 本章では、Sametime に直接適用される設定についてのみ説明します。次の表に設定値が示されていない場合には、任意の値を入力できます。

表示	説明
サーバー名	Sametime を追加する 新しい Domino Server の名前を入力します。たとえば、STDOM1 と指定します。
サーバーの詳細設定	同じシステム上で複数の Domino Server を実行できるようにするには、 [パーティションサーバーを有効にする] に [はい] と指定します。
ドメイン名	Domino ドメイン名を入力します。たとえば、Acme と入力します。
管理社名とパスワードの設定	Domino 管理者の名前を指定します。この管理者は Sametime サーバーの管理者にもなります。 Domino 管理者のパスワードを指定します。
インターネットサービス	[Web ブラウザ (HTTP services)] を選択します。 Sametime では、Domino HTTP サーバーを使用します。 [ディレクトリサービス (LDAP services)] の選択を解除します。 LDAP ディレクトリを使用する場合でも、Sametime と同じサーバー上で実行することはできません。
Domino ネットワーク設定	[カスタマイズ] をクリックして、詳細なネットワーク設定を表示します。

表示	説明
ネットワークの詳細設定	<p>このサーバーの IP アドレスに関連付けられたチェックボックスをクリックします。選択したチェックボックスが 1 つだけであることを確認します。</p> <p>[ホスト名] フィールドを編集して、このサーバーのインターネットホストの完全修飾名で IP アドレスを置き換える必要があります。[ホスト名] 列に表示された IP アドレスを上書きして、このサーバーの完全修飾ホスト名で置き換えます。たとえば、STDOM1.ACME.COM と入力します。[Enter] キーを押して、変更を有効にする必要があります。</p> <p>また、画面の下部にあるフィールドに完全修飾ホスト名を入力してください。</p> <p>終了したら [OK] をクリックし、Domino Server の設定が完了するまで作業を続行します。</p>

4. まだ起動していない場合は、Domino Server を起動します。

これでサーバーの設定は完了しました。本章の後半にある「Notes Client と Domino Administrator のインストールと設定」に進んでください。

既存の Domino ドメインに Domino Server を追加する

既存の Domino ドメインに Domino Server を追加する手順は、次のとおりです。

1. 通常の動作環境で追加のサーバーを登録します。登録時には、必ず次のように設定してください。
 - 登録時に作成されるサーバーの ID ファイルは、Sametime サーバーを設定するシステムのいずれかの場所に保存します。また、パス名を記録しておきます。Sametime サーバーの設定時に、このパス名を指定する必要があります。
 - ID ファイルの所有者を Qnotes に変更します。そのためには、iSeries ナビゲーターのファイルを右クリックして [許可] を選択します。
[許可] ダイアログボックスで、所有者を Qnotes に変更し、[除外] 以外のすべてのチェックボックスにチェックが付いていることを確認します。
 - Domino ドメインの最初の Domino Server と同じネットワーク名を使用します。

追加のサーバー登録の詳細については、Lotus のマニュアル『Domino 7 for i5/OS インストールガイド』を参照してください。

2. iSeries ナビゲーターの適切な設定ウィザードを起動します。これは、Domino をインストールしてあるかどうかによって異なります。

Domino をまだインストールしていない場合は、Domino の EZ-Setup ウィザードを使用して、システムに Domino ソフトウェアをインストールし、Domino Server を設定して、ワークステーションに Domino iSeries ナビゲーターのプラグインをインストールします。EZ-Setup ウィザードを起動するには：

- iSeries ナビゲーターを起動します。
- Domino を追加するシステムを起動します。
- [ネットワーク] をクリックします。
- [サーバー] を右クリックし、[Domino のインストールと設定] を選択します。

Domino をインストール済みの場合は、iSeries ナビゲーターを使用して新しいサーバーを設定します。新しい Domino Server の設定ウィザードを起動するには：

- iSeries ナビゲーターを起動します。
- Domino を追加するシステムを起動します。
- [ネットワーク] をクリックします。
- [サーバー] をクリックします。
- [Domino] を右クリックし、[新規 Domino Server] を選択して Java ベースの設定ウィザードを起動します。

3. ウィザードの各画面の指示に従って、新しい Domino Server を追加します。必ず、既存のドメインに Domino Server を設定するようにします。特定の設定に関してヘルプが必要な場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックします。
4. 次の設定値を指定して Domino Server を設定します。

メモ 本章では、Sametime に直接適用される設定についてのみ説明します。次の表に設定値が示されていない場合には、任意の値を入力できます。

表示	説明
サーバー名	Sametime を追加する新しい Domino Server の登録名を指定します。たとえば、Sales1/Acme と入力します。
サーバーの詳細設定	同じシステム上で複数の Domino Server を実行できるようにするには、[パーティションサーバーを有効にする]に [はい] と指定します。
インターネットサービス	<p>[Web ブラウザ (HTTP services)] を選択します。</p> <p>Sametime では、Domino HTTP サーバーを使用します。</p> <p>[ディレクトリサービス (LDAP services)] の選択を解除します。</p> <p>LDAP ディレクトリを使用する場合でも、Sametime と同じサーバー上で実行することはできません。</p>
Domino ネットワーク設定	[カスタマイズ] をクリックして、詳細なネットワーク設定を表示します。
ネットワークの詳細設定	<p>このサーバーの IP アドレスに関連付けられたチェックボックスをクリックします。選択したチェックボックスが 1 つだけであることを確認します。</p> <p>[ホスト名] フィールドを編集して、このサーバーのインターネットホストの完全修飾名で IP アドレスを置き換える必要があります。[ホスト名] 列に表示された IP アドレスを上書きして、このサーバーの完全修飾ホスト名で置き換えます。たとえば、STDOM1.ACME.COM と入力します。[Enter] キーを押して、変更を有効にする必要があります。</p> <p>また、画面の下部にあるフィールドに完全修飾ホスト名を入力してください。</p> <p>終了したら [OK] をクリックし、Domino Server の設定が完了するまで作業を続行します。</p>

これでサーバーの設定は完了しました。本章の後半にある「Notes Client と Domino Administrator のインストールと設定」に進んでください。Notes Client と Domino

Administrator がすでにインストールおよび設定されている場合は、「Sametime を追加するために Domino Server の設定を確認する」に進んでください。

Notes Client と Domino Administrator のインストールと設定

まだインストールおよび設定していない場合は、Domino Server のための管理者用ワークステーションを少なくとも 1 台設定する必要があります。Sametime に付属の Domino ソフトウェアを使用して、Domino Server の管理に使用する各ワークステーションに Notes Client と Domino Administrator をインストールおよび設定します。

Notes Client と Domino Administrator をインストールおよび設定する手順は、次のとおりです。

1. Notes Client をインストールします。
 - Notes Client の CD を Sametime の管理者用ワークステーションに挿入します。
 - Notes のインストールウィザードの各画面の指示に従って、Notes Client と Domino Administrator をインストールするオプションを選択します。
2. FTP を使用するか、iSeries ナビゲーターのドラッグアンドドロップ操作を使用して、システムの Domino データディレクトリから管理者用ワークステーションの Notes データディレクトリに、認証 ID と管理者 ID のファイルをコピーします。
3. Lotus Notes を開きます。
4. 設定ウィザードの指示に従って Notes Client を設定します。

設定が完了したら、「Sametime を追加するために Domino Server の設定を確認する」に進んでください。

Sametime を追加するために Domino Server の設定を確認する

Sametime を追加する前に、Domino Server 文書が正しいことを確認する必要があります。

1. 必要であれば、Domino Server を起動します。
 - iSeries ナビゲーターを起動します。
 - Sametime を追加するシステムを起動します。
 - [ネットワーク] をクリックします。
 - [サーバー] をクリックします。
 - [Domino] をクリックします。
 - 対象の Domino Server を右クリックし、[起動] を選択します。

メモ Domino Server が起動するまで数分かかる場合があります。

2. Domino Administrator を使用して、サーバー文書の内容を確認し、必要に応じて更新します。
 - [設定] タブを選択します。
 - 左側のペインで、[サーバー] をクリックして [すべてのサーバー文書] を選択します。
 - 対象の Domino Server のサーバー文書を開き、[サーバーの編集] ボタンをクリックします。
3. 次のフィールドの内容を確認します。

タブ	フィールド	設定
セキュリティ	Programmability の制限:制限なしで実行	別の署名でエージェントに登録している場合、その署名もここに入力します。
ポート - Notes ネットワークポート	ポート	TCPIP メモ このフィールドには、上記のとおり正確に指定しないと、サーバーに Sametime を追加できません。
ポート - Notes ネットワークポート	ネットアドレス	Domino Server の完全修飾ホスト名を指定します。 ここで IP アドレスを指定することはできません。また、下記の [インターネットプロトコル - HTTP] の [ホスト名] フィールドで指定された名前と一致する必要があります。 たとえば、stdom1.acme.com と指定します。
インターネットプロトコル - HTTP	基本情報:ホスト名	Sametime サーバーの TCP/IP アドレスの DNS 名を指定します。上記の [ポート - Notes ネットワークポート] の [ネットアドレス] フィールドで指定された名前と一致する必要があります。 たとえば、stdom1.acme.com と指定します。

タブ	フィールド	設定
インターネットプロトコル - HTTP	基本情報:ホスト名へのバインド	有効
インターネットプロトコル - HTTP	マッピング:ホームURL	サーバーにアクセスするユーザーに対して、Sametime サーバーのホームページをデフォルトページとして表示するには、次の値を指定します。 stcenter.nsf?Open

4. [保存して閉じる] をクリックします。
5. サーバー文書を変更した場合は、Domino Server を停止してから再起動して、変更を有効にする必要があります。

Domino Server を停止する手順は、次のとおりです。

- iSeries ナビゲーターを起動します。
- Sametime を追加するシステムを起動します。
- [ネットワーク] をクリックします。
- [サーバー] をクリックします。
- [Domino] をクリックします。
- 対象の Domino Server を右クリックし、[停止] を選択します。

メモ Domino Server が停止するまで数分かかる場合があります。

Domino Server を再起動する手順は、次のとおりです。

- [ネットワーク] をクリックします。
- [サーバー] をクリックします。
- [Domino] をクリックします。
- 対象の Domino Server を右クリックし、[起動] を選択します。

メモ Domino Server が起動するまで数分かかる場合があります。

これでサーバーの設定は完了しました。本章の後半にある「Domino Server へのアクセスを確認する」に進んでください。

Domino Server へのアクセスを確認する

Sametime をインストールして Domino Server に追加する前に、クライアントワークステーションから Domino Server にアクセスできることを確認します。

クライアントワークステーションから **Domino Server** にアクセスできることを確認するには、ワークステーションの **Web** ブラウザを起動して、ロケーションバーに次のアドレスを入力して **names.nsf** へのアクセスを試行します。

`http://hostname.yourco.com/names.nsf`

`hostname.yourco.com` は **Domino Server** のホスト名です。

names.nsf の内容を確認できる場合は、**Domino Server** へのアクセスが可能であり、**Sametime** をインストールする環境が整っています。

これで、システムの **Sametime** 環境が整いました。第 5 章「**Sametime** のインストール」に進んでください。

第 4 章 既存の Sametime 環境をアップグレードするための準備

ここでは、現在インストールされている Sametime を IBM Lotus Sametime 7、Instant Messaging Limited Use version にアップグレードする場合にも、また IBM Lotus Sametime 7 にアップグレードする場合にも役立つ情報を提供します。本章には次のセクションがあります。

- Instant Messaging Limited Use version から完全版の Lotus Sametime にアップグレードする
- アップグレード時のリリース別考慮事項
- サーバーをアップグレードする準備を整える
- データのバックアップ

Instant Messaging Limited Use version から完全版の Lotus Sametime にアップグレードする

Lotus Sametime for i5/OS では、Sametime の Instant Messaging Limited Use version から完全版へのアップグレードをサポートしています。完全版の Sametime へのアップグレードでは、追加の製品オプション (オプション 1) をインストールするのみなので、既存の環境での中断を最小限に抑えてアップグレードを実行することができます。

Sametime の Instant Messaging Limited Use version をすでに使用している場合は、完全版をサポートするのに必要なタスクの多くは実行済みです。ここでは、*BASE 製品オプションのみがインストールされている既存の環境から、製品オプション 1 の Web Conferencing 機能を持つ完全版の Sametime 環境にアップグレードする際に必要な残りの手順について説明します。

メモ

- 完全版の Sametime にアップグレードすると、既存の Instant Messaging Limited Use version のサーバーはすべて完全版の Sametime サーバーに自動的にアップグレードされます。Instant Messaging Limited Use version のサーバーに戻す場合は、「既存のサーバーを Limited Use version または完全版の Sametime に変更する」を参照してください。
- Instant Messaging Limited Use version 環境用の Sametime Language Pack をインストールした場合は、完全版の Sametime へのアップグレード後に Language Pack を再インストールする必要はありません。

完全版の Sametime にアップグレードするには：

1. ホワイトボードの内容の保存機能を有効にするには、次のソフトウェアをインストールします。

OS/400 - ポータブル・アプリケーション・ソリューション環境 (PASE)、
5722SS1 オプション 33

ホワイトボードの内容を保存するように Sametime を設定するには、第 8 章の「ホワイトボードの内容の保存機能を有効にする」を参照してください。

2. Lotus Sametime、5724J23 オプション 1 をインストールします。

- 適切な i5/OS の権限を持つユーザープロフィールを使用してシステムにサインオンします。詳細については、「Sametime のインストールおよび設定に必要な i5/OS の権限」を参照します。
- 既存の Sametime サーバーをすべて停止します。
- Lotus Sametime for i5/OS の CD をサーバーのオプティカルドライブに挿入します。
- 次のコマンドを入力して、オプション 1 をインストールします。

```
RSTLICPGM LICPGM(5724J23) DEV(<OPTICAL>) OPTION(1)
```

<OPTICAL> はサーバーのオプティカルドライブです (例：OPT01)。

3. Sametime Web Conferencing が正常に機能していることを確認します。詳細については、「Sametime Web Conferencing を検証する」を参照してください。

アップグレード時のリリース別考慮事項

次の表は、以前のリリースから Sametime 7 にアップグレードする際の考慮事項を示します。

アップグレード元	考慮事項
Sametime 6.5.1 以前	<ul style="list-style-type: none"> ● IBM i5/OS V5R3 が必要です。 ● Domino 7 が必要です。 ● 必ず Cryptographic Access Provider 128-bit for iSeries (5722AC3) をご使用の iSeries サーバーにインストールすることをお勧めします。5722AC3 は、i5/OS V5R3 のすべてのオーダーに必ず含まれています。 ● Web Conferencing 機能付きサーバーの場合：Sametime Attachment Conversion Services を使用している場合、Sametime サーバーのアップグレード後は、Conversion Services もアップグレードする必要があります。詳細については、『Lotus Sametime 7 Conversion Services Setup Guide』を参照してください。このガイドは ¥STConv ディレクトリの Sametime コンポーネント CD に収録されています。
Sametime 3.1 以前	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記の考慮事項すべて。 ● Web Conferencing 機能付きサーバーの場合：ミーティングルームのホワイトボードの内容を保存するのに、Sametime で iSeries Tools for Developers、5799PTL を使用する必要がなくなります。ただし、OS/400 - ポータブル・アプリケーション・ソリューション環境 (PASE)、5722SS1 オプション 33 は必要です。この機能の設定は、Sametime 3.1 以前のリリースの場合よりも非常に簡単になっています。詳細については、「ホワイトボードの内容の保存機能を有効にする」を参照してください。
Sametime 3.0a 以前	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記の考慮事項すべて。

アップグレード元 考慮事項

Sametime 2.5	<ul style="list-style-type: none">● 上記の考慮事項すべて。● Sametime 2.5 以降では、認証を正確に行うために、サーバーの完全修飾ドメインネームサーバー (DNS) 名を必須とする Domino のシングルサインオンを使用しています。Sametime をアップグレードした場合、エンドユーザーは Sametime サーバーにアクセスする際に、Web ブラウザの URL ロケータに sametimeserver.meetings.acme.com など、Sametime サーバーの完全修飾 DNS 名を入力する必要があります。● 現在使用している Sametime サーバーが正確に機能している場合でも、アップグレードする前に、特定項目に対する現行の TCP/IP 構成を確認してください。Sametime サーバーの完全修飾ホスト名が、システムのホストテーブルで最初にリストされていることを確認してください。このホスト名は、同じ IP アドレスに関連付けられているどの短縮名よりも前にリストされている必要があります。ご使用のサーバーがホストテーブルの検索前に、DNS を検索するように設定されている場合は、Sametime サーバーの完全修飾ホスト名が DNS の最初にリストされていることを確認してください。詳細については、第 2 章「TCP/IP 環境の設定」を参照してください。Sametime のセキュリティの問題の詳細は、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』(sthelppad.nsf) の「Sametime セキュリティを操作する」を参照してください。
--------------	---

サーバーをアップグレードする準備を整える

ここでは、効果的なアップグレードを実現するため、このリリースに必要なソフトウェアの変更について説明します。これは必須条件のリストではありません。

「Lotus Sametime の要件」のセクションも参照してください。

- i5/OS V5R3 が必要です。

システムで OS/400 V5R1 または V5R2 を使用している場合は、必ずオペレーティングシステムをアップグレードしてから Sametime 7 をインストールしてください。

i5/OS V5R3 では、Sametime 3.1 よりも前のリリースはサポートされていません。Sametime 3.1 よりも前のリリースを使用している場合は、オペレー

ティングシステムを i5/OS V5R3 にアップグレードする前に、Sametime 3.1 または 6.5.1 (Domino 6.0.3/6.5.0 以降で) へのアップグレードを検討してください。

アップグレード計画においては、同じシステムで実行可能なその他の Domino Server や Domino Extended Products についても検討してください。アップグレードを行う前に、現在インストールされているサーバーリリースがすべて i5/OS V5R3 でサポートされることを確認してください。

i5/OS V5R3 および以前の OS/400 リリースでサポートされる Domino、Sametime、QuickPlace、およびその他の Domino Extended Product リリースの組み合わせについての最新または詳細な情報については、次の Web サイトの『Lotus Software for iSeries Compatibility Guide』を参照してください。

<http://www.ibm.com/eserver/iseries/domino/domino6/releasesupport.pdf>

- Domino 7 が必要です。

Sametime 7 をインストールする前に、UPDDOMSVR コマンドを使用して既存の Sametime サーバーをそれぞれ Domino 7 にアップグレードする必要があります。Sametime 7 にアップグレードする前に Domino 7 にアップグレードしていないサーバーはアップグレードできません。この問題を解決するには、まずサーバーを Domino 7 にアップグレードし、再度 Sametime をインストールします。

マルチバージョン機能のある Domino リリースを使用している Sametime サーバーの場合は、Domino 7 をインストールしても自動的に更新されないので注意してください。したがって、Sametime サーバーがマルチバージョン機能を持つリリースを使用している場合は、Domino 7 を随時インストールすることができます。ただし、Sametime 7 をインストールする環境が整うまでは Sametime サーバーを Domino 7 に更新しないでください。

アップグレードが終了すると、すべての Sametime サーバーで Sametime 7 と Domino 7 が実行されます。しかし、Domino マルチバージョン機能があると、別のリリースの Domino を実行する他の Domino Server も同じ LPAR に存在させることができます。そのため、Sametime サーバーをアップグレードする前に、他の Domino Server を 7.0 にアップグレードするという方法も可能です。たとえば、メールサーバーを Domino 7.0 にアップグレードし、Sametime 7.0 へのアップグレードの準備が整うまで Sametime 6.5.1 が Domino 6.5.x 上で実行されるようにすることができます。

最後に、アップグレードする際は、必ず Sametime と統合可能なその他の Domino Server や Domino Extended Products のアップグレード要件を考慮してください。たとえば、Lotus QuickPlace では、QuickPlace と Sametime の統合を設

定した場合には、Sametime サーバーを 7 にアップグレードする前に QuickPlace サーバーを 7 にアップグレードすることを推奨しています。

- **Cryptographic Access Provider 128-bit (5722AC3)** を推奨します。
ご使用のシステムに **Cryptographic Access Provider 128-bit for iSeries (5722AC3)** をインストールすることをお勧めしています。5722AC3 は、i5/OS V5R3 のすべてのオーダーに必ず含まれています。この製品は、以前は、**Secure Sockets Layer (SSL)** プロトコルを使用して Sametime サーバーとの接続を暗号化する場合にのみ推奨されていました。SSL または **Lotus Web Conferencing Audio Adapter for Premiere Conferencing** を使用している場合は、5722AC3 をインストールまたはアップグレードするまで Sametime 7 へのアップグレードは行わないでください。

データのバックアップ

アップグレード中のエラー発生時に備えて、Sametime 7 をインストールする前に重要なサーバーデータのバックアップを行います。

Sametime の **Instant Messaging Limited Use version** をインストールする場合は、以下のデータをバックアップしてください。

- **names.nsf** - 他の Domino Server からの複製が可能な場合に、オプションでバックアップします。
- **vpuserinfo.nsf** - メンバーリストなどのユーザーのプライバシー情報です。
- **streg.nsf** - 自動登録が可能な場合のみバックアップを行います。
- **da.nsf** - ディレクトリアシスタントをご使用の場合にバックアップを行います。
- **notes.ini** - 後の参照のためにバックアップを行います。
- チームルームおよびディスカッションデータベース
- カスタムのテンプレートまたはアプリケーション

IBM Lotus Sametime の完全版をインストールする場合は、上記のファイルの他に、以下のファイルもすべてバックアップしてください。

- ***.RAP** の拡張子が付いたファイル - 通常はサブディレクトリにある、記録されたミーティング文書のバックアップを行います。

meetintgserver.ini ファイルの値を変更した場合、Sametime をアップグレードする際は、以下の設定のみが保持されます。

- 次のセクションにある **Attachment Conversion Services** の設定。
[SOFTWARE¥Lotus¥Sametime¥MeetingServer¥ConversionServices]

- -Djava.awt.headless setting
- 次のセクションにある StartWaitTime= 設定。
[SOFTWARE¥Lotus¥Sametime¥MeetingServer¥Services]
- 次のセクションにある ConfigWaitTime= 設定。
[SOFTWARE¥Lotus¥Sametime¥MeetingServer]

以下のファイルは、アップグレード時に自動的に保存されるため、バックアップの必要はありません。

- meetingserver.ini
- sametime.ini
- stconfig.nsf

詳細については、第5章の「アップグレードプロセスを完了する」を参照してください。

第 5 章 Sametime のインストール

本章で説明する内容は次のとおりです。

- Lotus Sametime ソフトウェア使用許諾契約に事前に同意する
- Sametime をインストールまたはアップグレードする
- ライブラリリストの確認
- Sametime ランゲージパックのインストール
- Domino Server への Sametime の追加
- Sametime Instant Messaging を検証する
- Sametime Web Conferencing を検証する
- (アップグレードのみ) アップグレードプロセスを完了する

Lotus Sametime ソフトウェア使用許諾契約に事前に同意する

Sametime をインストールする前に Lotus Sametime ソフトウェア使用許諾契約を表示し、これに同意することを強くお勧めします。ソフトウェア使用許諾契約に事前に同意しなくても、インストールプロセスによって Sametime がシステムに復元されますが、プロセスが中断し、ソフトウェア使用許諾契約に同意するまでインストールは完了しません。

1. Lotus Sametime CD をシステムのオプティカルドライブに挿入します。
2. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力します。

GO LICPGM

[Work with Licensed Programs] 画面が表示されます。

3. [Work with Licensed Programs (LICPGM)] メニューから、オプション 5 ([Prepare for install]) を選択し、[Enter] キーを押します。[Prepare for Install] 画面が表示されます。
4. [Work with software agreements] の横のオプションフィールドに「1」と入力します。[Enter] キーを押します。

[Work with Software Agreements] 画面が表示されたら、ソフトウェア使用許諾契約の同意を必要とするすべての IBM ライセンスプログラムと、使用許諾契約に同意したかどうかが表示されます。この画面に表示されるのは、まだインストールされていないライセンスプログラムのみです。Lotus Sametime のソフト

ウェア使用許諾契約は、後の手順で CD から復元するまではリストに表示されません。

5. [F22] (shift-F10) キーを押して、Lotus Sametime CD からソフトウェア使用許諾契約を復元します。

Device パラメータに対し、ご使用のオプティカルドライブ名を指定します (例: OPT01)。[Enter] キーを押し、Sametime ソフトウェア使用許諾契約をシステムに復元します。

6. Sametime CD からソフトウェア使用許諾契約が復元されると、次のメッセージが表示されます。

Waiting for reply to message on message queue QSYSOPR

別のセッションにサインオンしてこのメッセージに応答するか、システムオペレーターに応答を要請することができます。

別のセッションからメッセージを表示して応答するには、次の手順を実行します。

- a. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力します。

```
WRKMSGQ QSYSOPR
```

- b. オプション 5 を選択し、メッセージを QSYSOPR メッセージキューに表示します。

- c. キュー内で次のメッセージを見つけます。

```
Load the next volume in optical device OPT01. (X G)
```

Lotus Sametime ソフトウェア使用許諾契約は復元されています。別の製品 CD からさらにソフトウェア使用許諾契約を復元したい場合は、次の CD を挿入し、「G」で応答します。次の CD からソフトウェア使用許諾契約が復元されると、再度メッセージが表示されます。完了したら、「X」でメッセージに応答します。

7. [Work with software agreements] 画面には、まだインストールされていない製品の復元ライセンスが表示されているはずですが。

- Instant Messaging Limited Use version の Lotus Sametime の CD を使用している場合は、ライセンスプログラム 5724J23、オプション *BASE のエントリが表示されます。
- 完全版の Lotus Sametime 製品の CD を使用している場合は、ライセンスプログラム 5724J23 に対して *BASE のエントリとオプション 1 のエントリの 2 つが表示されます。

8. ライセンスプログラム 5724J23 のエントリごとに、オプションフィールドに「5」と入力し、[Enter] キーを押してソフトウェア使用許諾契約を表示します。
[F14] キー ([許可]) を押し、ソフトウェア使用許諾契約の条項に同意します。

Sametime をインストールまたはアップグレードする

システムに Sametime をインストールする手順は、次のとおりです。

1. 旧リリースの Sametime からアップグレードする場合は、第 4 章「既存の Sametime 環境をアップグレードするための準備」の情報を確認してください。次の手順に進む前に、アップグレード時にバックアップするように推奨されているファイルを Sametime ディレクトリ構造の外のディレクトリまたは物理メディアに保存してください。

2. 適切な i5/OS の権限を持つユーザープロフィールを使用してサーバーにサインオンします。

適切な権限の詳細は、第 1 章の「Sametime のインストールおよび設定に必要な i5/OS の権限」を参照してください。

3. Sametime を追加する Domino Server を停止します。以前のリリースからアップグレードする場合、既存の Sametime サーバーをすべて停止する必要があります。

メモ 既存の Sametime サーバーがどれもまだ Domino 7 にアップグレードされていない場合は、UPDDOMSVR コマンドを実行して、ここでアップグレードします。Sametime 7 にアップグレードする前にサーバーを Domino 7 にアップグレードしないと、そのサーバーに対するアップグレードが失敗します。この問題を修正するには、まずサーバーを Domino 7 にアップグレードしてから、Sametime をインストールし直す必要があります。

4. Lotus Sametime CD または Lotus Sametime の Instant Messaging Limited Use version CD をサーバーのオプティカルドライブに挿入します。
5. 5250 エミュレーターウィンドウなどの、i5/OS のコマンドインターフェースを使用して、次のコマンドを入力し、[F4] キーを押します。

LODRUN

6. [LODRUN] パネルの [装置] フィールドに次の値を入力し、[Enter] キーを押します。

***opt**

7. [ディレクトリー] フィールドに次の値を入力し、[Enter] キーを押します。

/os400

Sametime プログラムが適切なライブラリと /QIBM ディレクトリにロードされます。ソフトウェアのインストールの進行に合わせて状況メッセージが表示されます。

以前のリリースからアップグレードする場合、インストールプロセス中に既存の Sametime サーバーがすべてアップグレードされます。ジョブログをチェックして、既存の Sametime サーバーがすべて正しくアップグレードされたことを確認してください。システム上で正しくアップグレードされた Sametime サーバーごとに、次のメッセージが表示されます。

Upgrade successful for Lotus Sametime server <servername>

さらに、Sametime データベースの設計を更新しなければならない場合があります。通常、各データベースの設計はサーバーで毎晩実行される Design タスクによって更新されます。また、次の手順を実行して、データベース設計を強制的に即時更新することも可能です。

8. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
WRKDOMCSL
9. [Domino コンソールの操作] 画面で Sametime サーバー名を入力し、[Enter] キーを押します。
10. コマンドプロンプトに次の Domino サブコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
LOAD DESIGN

ライブラリリストの確認

デフォルトでは、Sametime の英語バージョンがインストールされます。

システムの一次言語が英語ではない場合、以下の手順に従い、システムライブラリリストに QSYS2924 があることを確認してください。

メモ システムの一次言語が英語の場合、ライブラリリストを変更する必要はありません。

1. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
WRKSYSVAL QSYSLIBL
2. [システム値の処理] 画面で、QSYSLIBL の横に 2 と入力し、[Enter] キーを押します。

3. [システム値変更] 画面で、QSYS2924 がリストに追加されたかどうかを確認します。追加されていれば、[F3] キーを押して画面を閉じます。追加されていない場合は手順 4 に進みます。
4. [順序番号 0] の横に QSYS2924 と入力して、[Enter] キーを押します。
5. [F3] キーを押して画面を閉じます。
6. ライブラリリストを変更した場合は、システムをサインオフしてから再度サインオンし、新しいライブラリリストを有効にします。

Sametime の英語バージョンのみを使用する場合は、「Domino Server への Sametime の追加」に進んでください。

英語以外の言語で Sametime を使用するには、「Sametime ランゲージパックのインストール」に進んでください。

Sametime ランゲージパックのインストール

Sametime を英語以外の言語で使用するには、ランゲージパックが必要です。

Sametime の英語バージョンのみを使用する場合は、「Domino Server への Sametime の追加」に進んでください。

Sametime 7 環境にランゲージパックをインストールするときには、次のことを覚えておいてください。

- ロジカルパーティション (LPAR) には、1 つの言語だけをインストールできません。
- 英語のテンプレートが、翻訳済みのバージョンに置き換わります。
- メッセージや Web ページが保存されている多数のファイルが翻訳済みのバージョンに置き換わります。

システム上の英語テンプレートまたは英語ファイルをカスタマイズした場合、それらのテンプレートとファイルは翻訳済みのバージョンに置き換えられるので、カスタマイズした内容はすべて失われます。カスタマイズしたテンプレートを保存しておくには、ランゲージパックをインストールする前に、Sametime のディレクトリ構造の外部のディレクトリか物理メディアにバックアップディレクトリを作成して、テンプレートをコピーする必要があります。

- ランゲージパックのインストールプログラムによって、`/QIBM/ProdData/Lotus/Sametime/data` に `Sametime.cfg` という名前のファイルが作成されます。このファイルを使用すると、インストールされたランゲージパックの種類を確認できます。

- 後で別の Sametime ランゲージパックをインストールする場合は、まず現在使用しているランゲージパックを削除する必要があります。詳細は、「ランゲージパックを削除する」を参照してください。

ランゲージパックをインストールする

CD-ROM から Sametime ランゲージパックをインストールする手順は、次のとおりです。

1. Sametime 7 for i5/OS ランゲージパックの CD をサーバーのオプティカルドライブに挿入します。翻訳済みの言語ファイルは、この CD の Languagepack ディレクトリにあります。
2. Sametime のインストール時に使用したユーザープロフィールを使用して、システムにサインオンします。
3. システム上のすべての Sametime サーバーを停止します。
4. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
RSTLSTLNG
5. [Restore Lotus Sametime Language] 画面の [装置] フィールドに次の値を入力し、[Enter] キーを押します。

***opt**

6. インストールする言語の横に 1 と入力して、[Enter] キーを押します。
指定した言語の翻訳済みテンプレートとファイルが Sametime 製品のデータディレクトリにコピーされ、英語のテンプレートとファイルが上書きされます。これ以後、設定する新規 Sametime サーバーはすべて、そのインストールした言語ファイルを自動的に使用します。

以前のリリースからアップグレードする場合で、既存の Sametime サーバーがある場合、ランゲージパックのインストールプロセスは、既存の各 Sametime サーバー上の Sametime データベーステンプレートを自動的に更新します。通常、各データベースの設計はサーバーで毎晩実行される Design タスクによって更新されます。しかし、Domino Server コンソールから次のコマンドを実行することで、データベース設計を即時に更新できます。

load design

- ✕ ☞ サーバーにインストールしたソフトウェアを表示すると、まだ Sametime の英語バージョンの機能 (2924) がインストールされた状態で表示されません。

ランゲージパックのインストールが完了しました。Sametime を DBCS システム上で使用する場合は (日本語、韓国語、簡体中国語または繁体中国語)、「2 バイト言

語用の追加フォントをインストールする」に進んでください。それ以外の場合は、「Domino Server への Sametime の追加」に進んでください。

2 バイト言語用の追加フォントをインストールする

デフォルトでは、4セットの1バイト文字フォントが必ず Sametime とともにインストールされます。これらのフォントは、ミーティングルームのホワイトボード上に文字を表示するのに使われます。Sametime を DBCS システム上 (日本語、韓国語、簡体中国語または繁体中国語) で使用する場合は、Sametime コンポーネント CD からさらに2種類のフォントをサーバーにコピーする必要があります。

1. コンポーネント CD の ¥TrueTypeFonts ディレクトリで、ご使用の Sametime サーバーの言語と一致するサブディレクトリを探します。
2. サブディレクトリから両方のファイルをサーバー上の次のディレクトリにコピーします。

/QIBM/ProdData/Lotus/Sametime/Shared/ttfonts

3. 所有者変更 (CHGOWN) コマンドを実行し、両方のファイルの所有者を QNOTES に変更します。

メモ Sametime サーバーは常に、サーバーの CCSID と一致するフォントファイルを使用します。たとえば、サーバーの CCSID が韓国語であるにもかかわらず、ミーティング参加者の1人が日本語のクライアントを使用しているとします。このミーティング参加者がホワイトボードに日本語の文字を書き込もうとすると、サーバーが文字を正しく解釈できず、他の参加者にはこれらの文字が意味のない韓国語の文字列として表示されます。

「Domino Server への Sametime の追加」に進んでください。

ランゲージパックを削除する

Sametime のランゲージパックを削除するには、本章のはじめに説明した手順に従い、Sametime 7 の英語バージョンを再インストールします。Sametime 製品のデータディレクトリおよび Sametime サーバーのデータディレクトリに英語バージョンのテンプレートがインストールされます。

Domino Server に Sametime を追加する

メモ Sametime を以前のバージョンからアップグレードする場合は、Sametime の新リリースをインストールする際に既存の Sametime サーバーが自動的に

にアップグレードされます。新しい Sametime サーバーを設定する必要がある場合は、「Sametime Instant Messaging を検証する」に進んでください。

Sametime を Domino Server に追加するには、i5/OS コマンドを使用してご使用のサーバーにサインオンし、以下の手順を実行します。

1. Domino Server を停止します。
2. 任意の i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[F4] キーを押します。

ADDLSTDOM

3. [Domino Server 名] フィールドに、Sametime を追加する Domino Server の名前を入力します。
4. [ディレクトリタイプ] フィールドに *DOMINO または *LDAP と入力して [Enter] キーを押し、Sametime が使用するディレクトリのタイプを選択します。
 - *DOMINO を選択した場合は、手順 5 に進みます。
 - *LDAP を選択した場合は、以下の項目を設定します。

メ モ LDAP ディレクトリの使用方法の詳細は、『IBM Lotus Instant Messaging/Web Conferencing システム管理者ガイド』(sthelppad.nsf) を参照してください。

フィールド	説明
Name	Sametime が使用する LDAP サーバーの名前または TCP/IP アドレスを入力します。
ポート	Sametime が使用する IP ポートを入力します。LDAP 接続用のデフォルトの IP ポートは 389 です。
Base DN for search	LDAP ディレクトリを検索する際に使用するベース DN を入力します。ほとんどの種類の LDAP ディレクトリに、この値を指定します。

5. [HTTP トンネリングを許可] フィールドに、*YES または *NO と入力します。

メ モ このオプションを有効にすると、ファイアウォール内部で稼働する Sametime クライアントを Sametime サーバーに接続し、Sametime の在席者確認、チャット、画面共有、ホワイトボード、およびブロードキャスト機能を使用できるようになります。
6. 追加のパラメータを指定するには、[F10] キーを押します。
7. HTTP トンネリング機能を有効にする場合は、HTTP サーバーが使用するポート番号を指定します。デフォルトはポート 8088 です。

8. [追加のパラメータ] の各フィールドを設定します。

メモ 各フィールドを表示するには、必要に応じて [PageDown] キーを押します。

フィールド	説明
Event Server port	Sametime サーバーのイベントサーバーサービスで使用するポートを入力します。 メモ サーバーの1つのロジカルパーティション (LPAR) に複数の Sametime サーバーがインストールされている場合は、各イベントサーバーサービスが別々のポートを使用するように設定してください。
Token Server port	Sametime サーバーのトークンサーバーサービスで使用するポートを入力します。 メモ サーバーの1つのロジカルパーティション (LPAR) に複数の Sametime サーバーがインストールされている場合は、各トークンサーバーサービスが別々のポートを使用するように設定してください。既に使用されている Sametime ポートの判別については、technote 「Sametime for iSeries: Verifying Each Server on System Uses Unique Ports」を参照してください。 technote のアドレスは次のとおりです。 http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?rs=203&uid=swg21212892
Start Domino server	設定の完了時に、Sametime サーバーを起動するかどうかを指定します。

9. [Enter] キーを押し、コマンドを実行します。

Domino Server に Sametime が追加されている間、コンソール画面にその進行状況が表示されます。Sametime の追加が完了し、プロンプトが表示されたら、[Enter] キーを押します。

10. 設定時に Domino Server の起動を選択しなかった場合は、この時点で Domino Server を再起動します。

Domino Server が起動したら、次のセクション「Sametime Instant Messaging を検証する」に進んでください。

Sametime Instant Messaging を検証する

[Sametime へようこそ] ページにアクセスし、Sametime Connect を起動すると、Sametime Instant Messaging を検証できます。

これらのタスクのいずれかが失敗した場合は、次の Web サイトにて technote 1108423 「Sametime for iSeries: Most Common Problems」を参照してください。

<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=203&uid=swg21108423>

■ [Sametime へようこそ] ページにアクセスする

[Sametime へようこそ] ページにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Web ブラウザを起動します。
2. 次の URL を入力します。

`http://ホスト名/stcenter.nsf`

ホスト名は、アクセスする Sametime サーバーの完全修飾ホスト名です。

- メモ 必ず、サーバーの完全修飾ホスト名を指定してください (例: `http://stserver.acme.com/stcenter.nsf`)。完全修飾ホスト名を使用しないと、[Sametime へようこそ] ページにはアクセスできてもログインすることはできません。

Sametime Web Conferencing を検証する

- メモ このトピックは、Web Conferencing 機能を使用するサーバーにのみ該当します。Instant Messaging Limited Use version の Sametime しか実行しないサーバーでは、これらの手順は不要です。

Sametime Web Conferencing が有効かどうかを確認するには、[Sametime へようこそ] ページにアクセスし、新しいミーティングを作成してマルチメディアサービスをテストします。

これらのタスクのいずれかが失敗した場合は、次の Web サイトにて technote 1108423 「Sametime for iSeries: Most Common Problems」を参照してください。

<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=203&uid=swg21108423>

■ [Sametime へようこそ] ページにアクセスする

[Sametime へようこそ] ページにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Web ブラウザを起動します。
2. 次の URL を入力します。

`http://ホスト名/stcenter.nsf`

ホスト名は、アクセスする Sametime サーバーの完全修飾ホスト名です。

- メモ 必ず、サーバーの完全修飾ホスト名を指定してください (例: `http://stserver.acme.com/stcenter.nsf`)。完全修飾ホスト名を使用しないと、

[Sametime へようこそ] ページにはアクセスできてもログインすることはできません。

■新しいミーティングを作成する

次の手順に従って、新しいミーティングを作成します。

1. [Sametime へようこそ] ページで、[ミーティングを予約する] をクリックします。
2. [新規ミーティング] ページで、ミーティングの種類を選択し、ミーティングの名前を入力します。
3. [モデレーター] フィールドは任意に選択できます。
4. [すぐに開始] をクリックします。
5. ミーティングの継続時間を選択します。
6. [保存] をクリックするとミーティングが開始されます。

メモ [ミーティングの詳細] ページが表示され、ミーティングが開始されないときは、ブラウザの [更新] ボタンをクリックします。ミーティングが別のブラウザウィンドウで開始されます。

■マルチメディアサービスをテストする

オーディオ/ビデオクライアントをテストして、マルチメディアサービスが正しく動作しているかを確認します。オーディオ/ビデオ機能のシステム要件の詳細については、第1章の「Sametime クライアントの要件」を参照してください。

マルチメディアサービスをテストする手順は、次のとおりです。

1. Web ブラウザで次の URL を入力して [Sametime へようこそ] ページにアクセスします。
`http://ホスト名/stcenter.nsf`
ホスト名は、アクセスする Sametime サーバーのホスト名または TCP/IP アドレスです。
2. [Sametime へようこそ] ページで、[ミーティングに参加する] をクリックします。
3. [テストミーティング] をクリックし、画面の指示に従ってオーディオ/ビデオデバイスをテストします。

メモ 各ユーザーは、Sametime サーバーでマルチメディアミーティングに参加する前に、各自のオーディオ/ビデオデバイスをテストする必要があります。

マルチメディアサービスの操作および設定の詳細は、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』(sthelppad.nsf) を参照してください。

(アップグレードのみ) アップグレードプロセスを完了する

Sametime 7にアップグレードしたら、ご使用の環境に応じて次のタスクを実行し、アップグレードプロセスを完了します。

- アップグレードプロセス中には、アップグレードの完了後に確認が必要になった場合に備えて、いくつかのファイルのオリジナル版が保存されます。オリジナルの `meetingserver.ini` ファイルは、サーバーのデータディレクトリに `meetingserver.bak` という名前で保存されます。`sametime.ini` ファイルと `stconfig.nsf` ファイルは、サーバーのデータディレクトリのサブディレクトリに保存されます。これらのサブディレクトリ名は、アップグレード前にどの Sametime リリースが実行されていたかにより ST25BU、ST30BU、ST30ABU、ST31BU、ST651BU のいずれかになります。
- Web Conferencing 機能を備えたサーバーで、Sametime Conversion Services を現在使用している場合は、Sametime サーバーのアップグレード後に、Conversion サーバーもアップグレードする必要があります。詳細は、『Lotus Sametime 7 Conversion Services Setup Guide』を参照してください。
- 別のシステムまたは LPAR 上にある Sametime サーバーが、Sametime 7 サーバーと同じコミュニティに属している場合は、最終的にコミュニティ内のすべてのサーバーを Sametime 7 または Sametime 6.5.1 にアップグレードする必要があります (Sametime 3.0、3.0a、3.1 との相互運用性は、アップグレードプロセス中のみサポートされます)。
- 旧リリースの Sametime を次のいずれかの製品と統合した場合は、ご使用の環境が引き続き正しく機能するために、さらに手順の実行が必要になることがあります。
 - Notes および Domino
詳細は、『Lotus Domino 7 Administrator ヘルプ』 (HELP7_ADMIN.NSF) を参照してください。
 - Domino Web Access
詳細は、『Lotus Domino 7 Administrator ヘルプ』 (HELP7_ADMIN.NSF) を参照してください。
 - Lotus QuickPlace
詳細は、『Lotus QuickPlace 7 Installation and Upgrade Guide』の「Setting up Lotus QuickPlace to work with Lotus Sametime」を参照してください。

- Domino 5 または Domino 6 から Domino Server をアップグレードした場合は、アップグレード前にサーバーで LDAP タスクが実行されていなかった場合でも、LDAP タスクがデフォルトで有効になっている場合があるので注意してください。Domino Server で LDAP を無効にするには、OS/400 コマンドラインから以下のコマンドを実行してください。

```
CHGDOMSVR SERVER(<Domino_server_name>) DIRSRV(*NONE)
```

第 6 章 Sametime クライアントソフトウェアの配置

Sametime ユーザーは、さまざまなクライアントアプリケーションを利用してコラボレーションを行います。これらのアプリケーションは、Sametime サーバー上で実行される各種サービスと連携します。この章では、利用可能な各種クライアントアプリケーションと、それらを配置する方法について説明します。

メモ この章には、Sametime ユーザーの設定手順は記載されていません。

Sametime ユーザーの設定については、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』を参照してください。

この章で説明するトピックは次のとおりです。

- 各種 Sametime クライアントの概要
- Sametime クライアントパッケージ
- Sametime Installer for Secure Desktops

各種 Sametime クライアントの概要

次の表に、使用可能な各種 Sametime クライアント、サポートされる Sametime のバージョン、および補足説明の記載場所を示します。

クライアント のタイプ	完全版 Sametime での使用	Instant Messaging Limited Use version で の使用	メモ
			メインページから使用できます。配置やセットアップは不要です。

クライアント のタイプ	完全版 Sametime での使用	Instant Messaging Limited Use version で の使用	メモ
			<p>Sametime サーバーと統合可能にする必要があります。</p> <p>詳細は、『Lotus Domino 7 Administrator ヘルプ』（HELP7_ADMIN.NSF）を参照してください。</p>
			<p>Sametime サーバーと統合可能にする必要があります。</p> <p>詳細は、『Lotus Domino 7 Administrator ヘルプ』（HELP7_ADMIN.NSF）を参照してください。</p>
			<p>完全版 Sametime サーバーの [ようこそ] ページからダウンロードできます。</p> <p>クライアントパッケージを使用できます。詳細は、「Sametime クライアントパッケージ」を参照してください。</p>

クライアント のタイプ	完全版 Sametime での使用	Instant Messaging Limited Use version で の使用	メモ
			<p>ユーザーがクライアントワークステーションに対して管理者権限を持っている場合は、ミーティングの参加時に自動的にダウンロードされます。</p> <p>ユーザーが管理者権限を持っていない場合は、Sametime Installer for Secure Desktops を使用してダウンロードできます。詳細は、「Sametime Installer for Secure Desktops」を参照してください。</p>
	○	×	
	○	×	
	○	×	Domino Web Access 以外の Sametime リンククライアントは、Instant Messaging Limited Use version の Sametime ではサポートされていません。

Sametime クライアントパッケージ

Sametime クライアントパッケージアプリケーションを使用すると、Sametime Connect をデスクトップ用にカスタマイズできます。ユーザーはこのカスタマイズ版を Sametime サーバーからダウンロードしてインストールします。インストールパッケージをカスタマイズしない場合、各ユーザーは接続の設定を入力する必要があります。

メモ デスクトップ用 Sametime Connect は、完全版 Sametime のオプション機能です (*BASE およびオプション 1)。完全版 Sametime を使用する場合は、ユーザーにブラウザ用 Sametime Connect を使用させることもできます。こ

のクライアントは、[Sametime へようこそ] ページからダウンロードできる、署名済み Java アプレットです。

インストールパッケージをカスタマイズするときには、SametimeClient.exe という名前の自己解凍型のインストールファイルを作成します。SametimeClient.exe ファイルの作成後、必ず Sametime サーバーの特定のディレクトリに配置して、ユーザーが Sametime サーバーのホームページからアクセスできるようにしてください。この方法については、このセクションの「カスタマイズしたデスクトップ用 Sametime Connect クライアントをサーバーに配置する」で詳しく説明します。

自己解凍型の SametimeClient.exe ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

1. 管理者権限を持つ Windows ワークステーションで、Sametime 7 コンポーネントの CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. CD の SametimeClientPackager.exe ファイルをダブルクリックし、設定ウィザードを起動します。
3. [Welcome] 画面が表示されたら、[Next] をクリックします。
4. [Yes] をクリックして、ライセンス契約に同意します。
5. [Client Setup Location] ウィンドウで、作成されたパッケージが書き込まれるフォルダを選択します。
6. [Default Client Installation Location] ウィンドウで、ユーザーがクライアントをインストールするデフォルトのフォルダを選択します。たとえば、C:\Program Files\Lotus\Sametime Client と入力します。
7. [Select Features] ウィンドウで、デスクトップ用 Sametime Connect クライアントに Directory Browsing 機能を組み込むかどうかを選択します。この機能を使用すると、[ユーザーまたはグループの追加] ダイアログボックスと [招待者リストに追加] ダイアログボックスに [ディレクトリ] ボタンが追加され、企業のアドレス帳が参照できるようになります。
8. [Connect.ini File] ウィンドウでは、Sametime クライアントの設定ファイルにコピーする connect.ini ファイルを指定できます。.ini ファイルを指定すると、各ユーザーの接続情報が設定されます。これによって、各ユーザーが手動で接続情報を設定する必要がなくなります。デフォルトの connect.ini ファイルは、クライアントのインストールディレクトリにあります。このファイルは任意のテキストエディタで編集でき、ユーザーの環境に合わせてカスタマイズできます。
メモ connect.ini ファイルを指定すると、パッケージは手順 14 に進みます。connect.ini ファイルを指定しない場合は、このフィールドを空欄にしたまま次の手順に進んでください。

9. **[Automatic Logon]** ウィンドウで、ユーザーが各自のユーザー名、パスワード、およびプロキシ情報を .ini ファイルに保存できるようにするかどうかを選択します。
10. **[Sametime Connectivity]** ウィンドウで、ホーム Sametime サーバーの名前または IP アドレスとポート番号を指定します。
11. **[Sametime Connection Type]** ウィンドウで、デスクトップ用 Sametime Connect クライアントに次のいずれかの接続タイプを選択します。
 - LAN 接続 (Direct connection using Sametime protocol)
 - HTTP プロトコルを使用する直接接続 (Direct connection using HTTP protocol)
 - プロキシ接続 (Use proxy)プロキシ接続を選択すると、プロキシタイプ (HTTPS、SOCKS4、SOCKS5、または HTTP) とプロキシサーバーの設定 (プロキシサーバーの名前または IP アドレスとポート番号) の入力を求められます。
12. **[Allow installation with no user interaction]** ウィンドウで、インストールプロセス中にユーザーとの対話を行わずに、すべてデフォルト設定にしてインストールを実行するかどうかを指定します。
13. **[Keep-Alive Message Timeout]** ウィンドウで、デスクトップ用 Sametime Connect クライアントと Sametime サーバー間の接続を Sametime がチェックする頻度を、秒数で指定します。

メモ この機能を無効にするには、ゼロ (0) を指定します。
14. **[Silent install]** ウィンドウで、ユーザーとの対話を行わずに、コネクトクライアントのサイレントインストールを実行するかどうかを指定します。
15. **[Create Package]** ウィンドウに、これまでの設定内容が表示されます。[Next] をクリックすると、ファイルのコピーが開始されます。クライアントインストールパッケージが作成され、指定の場所に書き込まれます。
16. **[Packaging Complete]** ウィンドウが表示され、パッケージの作成が完了したことが通知されます。[Finish] をクリックします。

次の「カスタマイズしたデスクトップ用 Sametime Connect クライアントをサーバーに配置する」に進み、ユーザーがクライアントを使用できるように配置します。

カスタマイズしたデスクトップ用 Sametime Connect クライアントをサーバーに配置する

カスタマイズした SametimeClient.exe ファイルをサーバーに配置して、ユーザーが Sametime サーバーのホームページからアクセスできるようにするには、そのファイ

ルを Sametime サーバーのデータディレクトリのサブディレクトリ domino/html/sametime にコピーする必要があります。たとえば、次のように指定します。

/サーバー名/notes/data/domino/html/sametime

サーバー名は、Domino Server を作成したときに指定した名前です。

メモ ファイルをコピーするには、FTP を使用するか、IFS 上の Domino html ディレクトリをネットワークドライブとして自分のワークステーションにマッピングします。FTP を使用してファイルをコピーする場合の詳細は、『Domino 7 for i5/OS インストールガイド』を参照してください。

サーバーに SametimeClient.exe ファイルをコピーしたら、次の手順に従って所有権を QNOTES に変更する必要があります。

1. SametimeClient.exe ファイルを見つけます。

- iSeries ナビゲーターを起動します。
- Sametime を追加したシステムを開きます。
- [ファイル・システム] をクリックします。
- [統合ファイル・システム] をクリックします。
- [Root] をクリックします。
- Domino データディレクトリのパスの、各ディレクトリをクリックします。たとえば、Domino データディレクトリが /サーバー名/notes/data の場合、[サーバー名]、[notes]、[data] の順にクリックします。
- [Domino] をクリックします。
- [html] をクリックします。
- [Sametime] をクリックします。

SametimeClient.exe が右側のペインのリストに表示されるまで、下にスクロールします。大文字で始まるファイルは、リストの最後までスクロールしないと見つからない場合があります。

2. SametimeClient.exe オブジェクトの所有権を変更します。

- [SametimeClient.exe] を右クリックして、[許可] を選択します。
- [所有者] ボタンをクリックします。
- [新規所有者の選択] フィールドで、[すべてのユーザー] を展開します。
- [Qnotes] をクリックし、[現行所有者からすべての許可を除去] ボックスにチェックが付いていることを確認します。
- [OK] をクリックします。

3. [除外] を除く [Qnotes] 以降のすべてのチェックボックスがチェックされていること、および [共通] 以降では [除外] のみにチェックが付いていることを確認します。
 - [適用] をクリックして、[許可] ウィンドウを閉じます。

SISD (Sametime Installer for Secure Desktops)

SISD (Sametime Installer for Secure Desktops) では、ワークステーション上に以下の Java クライアントをインストールするために、InstallShield(R) ウィザードが使用されます。

- ブラウザ用 Sametime Connect
- Sametime ミーティングルームクライアント
- Sametime ブロードキャストクライアント
- Sametime ディレクトリアプレット

※ Instant Messaging Limited Use version の Sametime では、すべての Java クライアントがインストールされますが、使用されるのはブラウザ用 Sametime Connect クライアントのみです。

通常、ユーザーは上記のクライアントを別々にダウンロードする必要があります。SISD を使用すると、これらすべてのクライアントを一度にインストールできるので、時間の節約になります。

SISD はユーザーが各コンピュータに対して管理者権限を持っていない場合に特に便利です。これらのユーザーはサーバーから Sametime クライアントをインストールできないからです。Sametime クライアントが無いと、これらのユーザーはミーティングへの参加、ブラウザ用 Sametime Connect の使用、または他の Sametime ユーザーを見つけるためのディレクトリへのアクセスなどができません。

SISD がある場合、システム管理者 (または、管理権限をもつユーザー) は、上記の Sametime クライアントをユーザーのコンピュータに敏速にインストールできます。

SISD は、Sametime コンポーネント CD の ¥SecureDesktop ディレクトリにあります。インストール手順およびクライアントワークステーションの要件に関する詳細なリストについては、同じディレクトリ内にある Securedesktop_readme.txt を参照してください。

第 7 章 Sametime の管理

Sametime サーバーは、次のいずれかの方法で管理できます。

■ iSeries ナビゲーターを使用する

本章では、iSeries ナビゲーターを使用して Sametime サーバーを管理する方法を説明します。iSeries ナビゲーターを使用すると、次の操作が可能です。

- Sametime サーバーを起動する
- Sametime サーバーを終了する

■ i5/OS のコマンドを使用する

Sametime サーバーの管理にコマンドを使用すると、iSeries ナビゲーターでは使用できない機能がいくつか使用できます。コマンドを使用すると、次の操作が可能です。

- Sametime サーバーを起動する
- Sametime サーバーを終了する
- 稼動している Domino Server で Sametime のコンポーネントを起動する
- 稼動している Domino Server で Sametime のコンポーネントを終了する
- 既存のサーバーを Limited Use version または完全版の Sametime に変更する
- Sametime サーバーの IP アドレスとホスト名を変更する
- Domino Server から Sametime を削除する

■ Sametime 管理ツールを使用する

Sametime 管理ツールには、インストールと設定の手順を完了した後に、[Sametime へようこそ] ページの [サーバーの管理] リンクからアクセスできます。Sametime 管理ツールを使用すると、次のようなさまざまな Sametime サーバー関連のアクティビティを管理できます。

- コミュニティサービスの管理
- ミーティングサービスの管理
- サーバーのアクティビティの管理
- ユーザーの管理
- 自動登録の制御

Sametime 管理ツールの詳細は、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』(sthelppad.nsf) を参照してください。

Sametime サーバーを起動する

Sametime サーバーの起動方法は、Domino Server の場合と同じです。Sametime サーバーの起動には、iSeries ナビゲーターまたは i5/OS コマンドを使用できます。

iSeries ナビゲーターを使用して Sametime サーバーを起動する

iSeries ナビゲーターを使用して Sametime サーバーを起動する手順は、次のとおりです。

1. iSeries ナビゲーターを起動します。
2. Sametime サーバーを起動します。
 - Sametime を追加したシステムを開きます。
 - [ネットワーク] をクリックします。
 - [サーバー] をクリックします。
 - [Domino] をクリックします。
 - Sametime を追加した Domino Server を右クリックし、[起動] を選択します。
3. [F5] キーを数回押して画面表示を更新し、サーバーの状況が [起動中] に変わるのを待ちます。

メモ Sametime サーバーが起動するまで数分かかる場合があります。

すべての Sametime コンポーネントが起動したかどうかを確認する手順は、次のとおりです。

4. iSeries ナビゲーターを起動します。
5. Sametime を追加したシステムを開きます。
6. [ジョブ管理] をクリックします。
7. [サーバー・ジョブ] をクリックして、実行する STMSACTPRV を検索します。

コマンドを使用して Sametime サーバーを起動する

1. コマンドを使用して Sametime サーバーを起動する手順は、次のとおりです。
2. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
WRKDOMSVR
3. [Work with Domino Servers] 画面で、Sametime を追加した Domino Server の横の [OPT] 欄に 1 と入力し、[Enter] キーを押してサーバーを起動します。

4. [Enter] キーを押してサーバーの選択を確認します。
5. [F5] キーを何度か押して画面表示を更新し、Domino Server の状況が [*STARTED] に変わるのを待ちます。

Sametime のコンポーネントがすべて起動したことを確認するには、該当のサーバーの横の [Opt] 欄に 5 と入力し、[Enter] キーを押して、Domino コンソールを表示します。

[Domino コンソールの表示] 画面で、「Sametime: Server startup successful」というメッセージが表示されるのを確認します。このメッセージは、すべての Sametime コンポーネントが起動したことを示しています。場合によっては、このメッセージが表示されるまで、[F5] キーを何度か押して画面表示を更新する必要があります。

Sametime サーバーを終了する

Sametime サーバーの終了手順は、Domino Server の場合と同じです。Sametime サーバーの終了には、iSeries ナビゲーターまたは i5/OS コマンドを使用できます。

iSeries ナビゲーターを使用して Sametime サーバーを終了する

iSeries ナビゲーターを使用して Sametime サーバーを終了する手順は、次のとおりです。

1. iSeries ナビゲーターを起動します。
2. Sametime サーバーを終了します。
 - Sametime を終了するシステムを開きます。
 - [ネットワーク] をクリックします。
 - [サーバー] をクリックします。
 - [Domino] をクリックします。
 - Sametime を追加した Domino Server を右クリックし、[停止] を選択します。
3. [F5] キーを何度か押して画面表示を更新し、サーバーの状況が [停止完了] に変わるのを待ちます。

メモ Sametime サーバーが停止するまで数分かかる場合があります。

コマンドを使用して Sametime サーバーを終了する

コマンドを使用して Sametime サーバーを終了する手順は、次のとおりです。

1. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
WRKDOMSVR

2. [Work with Domino Servers] 画面で、Sametime を追加した Domino Server の横の [OPT] 欄に 6 と入力し、[Enter] キーを押してサーバーを終了します。
3. [Enter] キーを押してサーバーの選択を確認します。
4. [F5] キーを何度か押して画面表示を更新し、Domino Server の状況が [*ENDED] に変わるのを待ちます。

稼働している Domino Server で Sametime のコンポーネントを起動する

Domino Server が起動すると、デフォルトでは Sametime のコンポーネントも自動的に起動します。ただし、すでに Domino Server が稼働しているときに Sametime のコンポーネントを起動する場合は、次の手順を実行します。

1. i5/OS のコマンドラインに、次に示す Domino コンソールの操作コマンドを入力し、[F4] キーを押します。
WRKDOMCSL
2. サーバー名を入力し、[Enter] キーを押します。
3. コンソールのコマンドプロンプトに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
load STADDIN2
4. [F5] キーを何度か押して画面表示を更新し、Sametime が稼働していることを示すメッセージが表示されるのを確認します。

稼働している Domino Server で Sametime のコンポーネントを終了する

Sametime のコンポーネントのみを停止し、Domino Server をそのまま稼働させておく場合は、次の手順を実行します。

メモ i5/OS 上の Sametime コンポーネントを個別に停止することはできません。

1. i5/OS のコマンドラインに、次に示す Domino コンソールの操作コマンドを入力し、[F4] キーを押します。
WRKDOMCSL
2. サーバー名を入力し、[Enter] キーを押します。
3. コンソールのコマンドプロンプトに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
tell STADDIN2 quit

4. [F5] キーを何度か押して画面表示を更新し、Sametime が終了したことを示すメッセージが表示されるのを確認します。

既存のサーバーを Limited Use version または完全版の Sametime に変更する

各 Sametime サーバーは、完全版の Sametime サーバーか、Lotus Sametime の一部の機能のみを提供する Limited Use version のサーバー (Instant Messaging Limited Use version) のいずれかになります。Lotus Sametime for i5/OS では、CHGLSTDOM コマンドを使用して、既存のサーバーを Sametime から Instant Messaging Limited Use version (およびその逆) に変更することができます。

メモ サーバーを Instant Messaging Limited Use version から完全版 Sametime に変更するには、完全版の Sametime (製品オプションの *BASE および オプション 1) をシステムにインストールする必要があります。

サーバーを完全版 Sametime から Instant Messaging Limited Use version (またはその逆) に変更するには、次の手順を実行します。

1. Sametime サーバーを終了します。
2. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[F4] キーを押します。
CHGLSTDOM
3. [Change Sametime on Domino] 画面で、サーバーを完全版 Sametime サーバーに変更する場合は **[Web Conferencing]** を [*YES] に、Instant Messaging Limited Use version サーバーに変更する場合は [*NO] に設定します。
4. [Enter] キーを押し、コマンドを実行します。
5. Sametime サーバーを起動します。

IP アドレスを変更する

Sametime サーバーは、直接に IP アドレスを参照するのではなく、ホスト名を使用するように設定する必要があります。こうしておけば、ホストテーブルと DNS を更新するだけで、Sametime サーバーの IP アドレスを変更できます。

Sametime サーバーの IP アドレスを変更する手順は、次のとおりです。

1. ホストテーブルを更新し、新しい IP アドレスが正しいホスト名に関連付けられるようにします。ご使用の Sametime サーバーについて、完全修飾ホスト名が短縮名よりも前にリストされることを確認します。詳細については、第 2 章の「ホストテーブルを更新する」または付録 B の「コマンドを使用してホストテーブルを更新する」を参照してください。

2. 同様に、DNS エントリを更新し、新しい IP アドレスが正しいホスト名に関連付けられるようにします。ご使用のサーバーがホストテーブルよりも前にドメインネームサーバー (DNS) を検索するよう設定されているかどうか確認します。そのように設定されている場合は、Sametime サーバーの完全修飾ホスト名が DNS の最初にリストされていることも確認してください。設定した検索順序を確認するには、第 2 章の「ドメインネームサーバーを更新する」または付録 B の「ドメインネームサーバーを更新する」を参照してください。
3. Sametime サーバーを終了してから再起動し、変更した内容を有効にします。これらの値の確認および変更方法の詳細については、「第 2 章 TCP/IP 環境の設定」を参照してください。

ホスト名を変更する

i5/OS のコマンド CHGLSTDOM を使用すると、Sametime サーバーのホスト名の設定を簡単に変更できます。このセクションで説明する手順を使用して、Sametime サーバーの設定上の問題を修正することもできます。たとえば、Sametime サーバーのセットアップ時に TCP/IP ホストテーブルの最初に完全修飾ホスト名が正しくリストされていなかった場合、Sametime サーバーの複数の設定項目が間違っている可能性があります。この種のサーバー設定上の問題は、以下の手順に従ってホスト名を変更することで解決できます。

ホスト名を変更する手順は、次のとおりです。

1. ホストテーブルを更新し、新しいホスト名が正しい IP アドレスに関連付けられるようにします。ご使用の Sametime サーバーについて、完全修飾ホスト名が短縮名よりも前にリストされることを確認します。詳細については、第 2 章の「ホストテーブルを更新する」または付録 B の「コマンドを使用してホストテーブルを更新する」を参照してください。
2. 同様に、DNS エントリを更新し、新しいホスト名が正しい IP アドレスに関連付けられるようにします。ご使用のサーバーがホストテーブルよりも前にドメインネームサーバー (DNS) を検索するよう設定されているかどうか確認します。そのように設定されている場合は、Sametime サーバーの完全修飾ホスト名が DNS の最初にリストされていることも確認してください。設定した検索順序を確認するには、第 2 章の「ドメインネームサーバーを更新する」または付録 B の「ドメインネームサーバーを更新する」を参照してください。
3. Sametime サーバーを終了します。

4. CHGDOMSVR コマンドを使用して、Domino Server のホスト名を更新します。Domino Server の設定の変更の詳細については、付録 B の「コマンドを使用して既存の Domino Server の設定を更新する」を参照してください。
5. 任意の i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[F4] キーを押します。

CHGLSTDOM

6. [Domino に追加した Sametime の変更] 画面で、次の名前を指定します。
 - 設定を変更する Sametime サーバーの名前 (たとえば、stdom1)
 - Sametime サーバーの新しい完全修飾ホスト名 (たとえば、stdom1.acme.com)[Enter] キーを押し、コマンドを実行します。CHGLSTDOM コマンドは以下を実行します。
 - サーバー文書の [ポート] ・ [Notes ネットワークポート] ・ [ネットアドレス] フィールドを更新します。
 - サーバー文書の [インターネット] ・ [HTTP] ・ [ホスト名] フィールドにホスト名を追加します。
 - ホスト名を参照する Sametime ファイルを更新します。
7. Sametime サーバーを起動します。
8. Sametime サーバー上の Domino ディレクトリ (names.nsf) を開き、サーバー文書を編集します。サーバー文書の [インターネット] ・ [HTTP] タブを参照し、[基本情報] ・ [ホスト名] フィールドを検索します。
9. [基本情報] ・ [ホスト名] フィールドには複数の名前が含まれる場合があります。不正確または不要な名前がある場合は、削除します。正確な完全修飾ホスト名がフィールドの最初にリストされていることを確認します。
10. サーバー文書を保存し、閉じます。
11. 複数の IP アドレスを使用した HTTP トンネリングを使用している場合は、さらに設定を更新する必要があります。「複数の IP アドレスを使用した HTTP トンネリングを使用する場合にホスト名を更新する」を参照してください。
12. Sametime サーバーを終了してから再起動し、変更した内容を有効にします。

複数の IP アドレスを使用した HTTP トンネリングを使用する場合にホスト名を更新する

複数の IP アドレスを使用した HTTP トンネリングを使用している場合は、CHGLSTDOM コマンドの使用後に手動で設定を更新する必要があります。複数の

IP アドレスを使用した HTTP トンネリングを使用しない場合は、この手順を省略して次に進んでください。

CHGLSTDOM コマンドは新しいホスト名を [トンネリングするホスト名] フィールドに追加しましたが、必要なプレフィックス (community-、meeting-、broadcast- など) を Sametime 設定に保存していません。Sametime システム管理ツールを使用して、[接続] セクションの以下のフィールド内のホスト名を更新してください。

- [コミュニティサービスネットワーク] 設定 ・ [クライアント接続のアドレス] ・ [ホスト名] には、プレフィックス community- が必要です。
- [コミュニティサービスネットワーク] 設定 ・ [HTTP トンネリングクライアント接続のアドレス] ・ [ホスト名] には、プレフィックス community- が必要です。
- [ミーティングサービスネットワーク] 設定 ・ [HTTP トンネリングクライアント接続のアドレス] ・ [ホスト名] には、プレフィックス meeting- が必要です。
- [ブロードキャストサービスネットワーク] 設定 ・ [クライアント接続用のブロードキャストゲートウェイアドレス] には、プレフィックス broadcast- が必要です。

Domino Server から Sametime を削除する

Domino Server から Sametime を削除すると、Domino Server のデータディレクトリに追加されていたファイルや、Sametime コンポーネントの実行中に作成されていた Sametime 関連のすべてのファイルが削除されます。ユーザー文書やサーバー文書を含む Domino ディレクトリに対する更新、および ACL に対する変更の内容は破棄されません。Domino Server から Sametime を削除する手順は、次のとおりです。

1. Sametime を削除する Domino Server を終了します。
2. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[F4] キーを押します。
RMVLSTDOM
3. Sametime を削除する Domino Server の名前を入力し、[Enter] キーを押します。
4. プロンプトで指示されたら「g」と入力して、Domino Server からの Sametime の削除コマンドを実行します。
Sametime が削除されたことを示すメッセージが表示されます。
5. Domino Administrator を使用し、[Sametime サーバーかどうか] フィールドを [いいえ] に変更して Domino Server 文書を変更します。

6. この Sametime サーバーと他の Sametime サーバーとの間の Sametime 接続文書をすべて削除します。

Sametime の削除後も Domino Server によりサーバーとしての機能が実行されます。

第 8 章 Sametime のオプション設定

本章では、Sametime を使用する際に知っている役立つ Sametime コンポーネントについて説明します。機能について説明します。これらの機能はコラボレーション環境で設定可能です。本章で説明する項目は、次のとおりです。

- Sametime Conversion Services for whiteboard attachments を使用する
- ホワイトボードの内容の保存機能を有効にする
- 完全版の Sametime サーバーが含まれている環境で Limited Use version の Sametime を使用する
- Sametime ツールキットをインストールする
- コミュニティサービスマルチプレクサを使用する
- SIP ゲートウェイおよび SIP コネクタを使用する

Sametime Conversion Services for whiteboard attachments を使用する

Lotus Sametime Conversion Services は、ミーティング用のホワイトボードにある添付ファイルを表示する Sametime サーバー機能を拡張し、ユーザーの利便性を向上させます。

Sametime ミーティングのホワイトボードでミーティングの添付ファイルを自動で表示させるには、Sametime の Sametime Conversion Services というオプションコンポーネントをインストールし設定する必要があります。Sametime Conversion Services をインストールしない場合は、Sametime プリントキャプチャユーティリティを使用してホワイトボードで各ミーティングの添付ファイルを表示させます。Sametime プリントキャプチャユーティリティの詳細は、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』(sthelapad.nsf)を参照してください。

Sametime Conversion Services を使用すると、ミーティングの添付ファイルをプリントキャプチャユーティリティで準備する必要がほとんどありません。設定は、管理者によって実行されます。システム管理者が、Sametime Conversion Services を Windows ワークステーションまたはサーバー (Sametime Attachment Conversion サーバーと呼ばれます) にインストールします。また、管理者は、Sametime Attachment Conversion サーバーとの通信に必要な情報を Sametime サーバーに入力して設定します。

管理者が Sametime Conversion Services の設定を完了すると、エンドユーザーも使用可能になります。ミーティングに文書が添付された場合、Sametime サーバーはその文書を Sametime Attachment Conversion サーバーに自動的に送信します。Sametime Attachment Conversion サーバーはミーティングに文書が添付された Sametime サーバーに対して、その添付ファイルを適切な形式に変換して送り返します。添付ファイルがミーティングのホワイトボードに表示されます。

Lotus Sametime 7 Conversion Services は Sametime コンポーネント CD に収録されています。Sametime コンポーネント CD には、ハードウェアおよびソフトウェア要件、管理やトラブルシューティングのヒント、計画や考慮事項など、Sametime Conversion Services のインストール方法の詳細を示す『Lotus Sametime 7 Conversion Services Setup Guide』も収録されています。

ホワイトボードの内容の保存機能を有効にする

ホワイトボードの内容の保存機能を有効にすると、ミーティング中に表示されるファイルに対する変更を保存できます。

ホワイトボードの内容の保存機能を有効にするため、次の手順を実行します。

1. OS/400 - ポータブル・アプリケーション・ソリューション環境 (PASE)、5722SS1 オプション 33 をインストールします。詳細については、製品の資料を参照してください。
2. meetingserver.ini ファイルを Sametime サーバーのデータディレクトリに配置し、開いて編集します。iSeries ナビゲーターまたは EDTF コマンドを使用して、ファイルを開いて編集します。
3. meetingserver.ini ファイルで次の設定値を探します。

-Djava.awt.headless

この設定値は、ファイルの

[SOFTWARE¥Lotus¥Sametime¥MeetingServer¥Services¥JavaServiceManager] セクションにあり、ArgString キーワード値に含まれています。

4. デフォルトでは **false** に設定されています。次のように設定を変更します。

-Djava.awt.headless=true

注意 PASE をインストールしていない場合は、この設定を true に変更しないでください。この設定を変更し、しかも PASE がインストールされていない場合は、サーバーがクラッシュする可能性があります。

5. ファイルを保存し、Sametime サーバーを再起動して変更を有効にします。

- ミーティングルームのモデレーターがホワイトボードの内容を保存するオプションを使用できるようにならない場合は、サーバーの設定を更新する必要があります。Sametime サーバーのホームページで **[サーバーの管理]** をクリックします。次に、**[設定]** -> **[ミーティングサービス]** -> **[一般]** をクリックします。**[ホワイトボード注釈をミーティングに添付ファイルとして保存することを許可する]** を選択します。**[更新]** をクリックしてから、サーバーを再起動し、変更した内容を有効にします。

メモ ホワイトボードの内容を保存するオプションは使用できるようだが、保存操作が終了しない場合は、必要なソフトウェアがインストールされていない可能性が高いです。OS/400 - ポータブル・アプリケーション・ソリューション環境 (PASE)、5722SS1 オプション 33 をインストールするか、またはサーバー設定を変更してこのオプションを使用できないようにします。**[ホワイトボード注釈をミーティングに添付ファイルとして保存することを許可する]** の選択を解除する場合を除き、手順 5 を実行してサーバーの設定を変更してください。

完全版の Sametime サーバーが含まれている環境で Limited Use version の Sametime を使用する

完全版の Sametime サーバーが含まれている環境に Instant Messaging Limited Use version の Sametime サーバーを配置して、すべてのユーザーがインスタントメッセージングを介して相互に通信できるようにします。ただし、この環境では、完全版の Sametime サーバーの使用が許可されているユーザーだけが Sametime サーバーでミーティングを作成したり、参加したりできるようにする必要があります。また、完全版の Sametime サーバーで使用可能なデスクトップ用 Sametime Connect クライアントを使用できるのも完全版の Sametime サーバーのユーザーだけです。

メモ 1 つのロジカルパーティション (LPAR) に Instant Messaging Limited Use version のサーバーと完全版の Sametime サーバーを配置するには、*BASE およびオプション 1 製品をインストールする必要があります。オプション 1 をインストールするため、新しいサーバーを作成するたびに完全版の Sametime サーバーがデフォルト設定されます。Instant Messaging Limited Use version のサーバーに変更する場合は、第 7 章の「既存のサーバーを Limited Use version または完全版の Sametime に変更する」を参照してください。

Instant Messaging Limited Use version の Sametime のユーザーが、許可されていない完全版の Sametime サーバーの機能を使用しないようにするには、次の手順を実行してください。

1. ユーザーを適切なホーム Sametime サーバーに割り当てます。
2. インスタントメッセージング限定のユーザーが、ミーティングを作成したり、参加したりできないようにします。

手順の詳細については、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』を参照してください。『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』には、Instant Messaging Limited Use version と完全版の Sametime サーバーの両方が存在する環境におけるエンドユーザーの問題についての説明も記載されています。

Sametime ツールキットをインストールする

Sametime ツールキットを使用すると、Sametime の機能を他のアプリケーションに追加できます。ツールキットおよびツールキットの文書は、Lotus Sametime の Lotus developerWorks 製品ページからダウンロードできます。Sametime 製品ページには次の Web サイトからアクセスできます。

<http://ibm.com/developerworks/lotus/products>

コミュニティサービスマルチプレクサを使用する

コミュニティサービスマルチプレクサを使用すると、Sametime サーバーのパフォーマンスが向上します。マルチプレクサコンポーネントは、Sametime クライアントから Sametime サーバー上のコミュニティサービスへの接続を維持します。

コミュニティサービスマルチプレクサを 1 つまたは複数の Windows サーバーにインストールして設定することで、Sametime サーバー上のクライアント接続による負荷を軽減できます。

詳細については、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』(sthelpad.nsf) の「別のコミュニティサービスマルチプレクサを配置する (オプション)」を参照してください。これは、「ミーティングサービスをクラスタ化しない場合のコミュニティサービスクラスタの設定」セクションに記載されています。

コミュニティサービスマルチプレクサをインストールするように指示されている場合は、Lotus Sametime コンポーネント CD の CommunityMux ディレクトリにある Setup.exe ファイルを実行します。

コミュニティサービスマルチプレクサに最小限に必要なシステム要件は、Windows サーバーで Sametime 製品を実行する場合のシステム要件と同じです。詳細については、次の Web ページの Lotus Developer Domain Documentation Library か

らアクセスできる『IBM Lotus Sametime 7.0 インストールガイド』を参照してください。

<http://www.ibm.com/lotus/ldd/doc>

SIP ゲートウェイおよび SIP コネクタを使用する

Session Initiation Protocol (SIP) コネクタの使用および SIP ゲートウェイの有効化は、オプションの設定です。この設定は、現在の Sametime コミュニティ内の在席者確認機能やインスタントメッセージング機能を、SIP を有効にしている別のコミュニティのユーザーと共有したい場合に実行します。

SIP ゲートウェイおよび統合 SIP コネクタは、バージョン 7 のインストールまたはアップグレード時に自動的にインストールされ、デフォルトで Sametime サーバーに配置されます。管理者は、この機能を有効にして、ユーザーが使用できるようにする必要があります。SIP コネクタを、別の専用の Windows システムにインストールすることもできます。

SIP ゲートウェイ機能の有効化の詳細は、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』(sthelppad.nsf)に記載されています。

付録 A Sametime のインストールと設定に関する チェックリスト

この付録は、IBM Lotus Sametime または IBM Lotus Sametime、Instant Messaging Limited Use version をインストールおよび設定する際に役立つチェックリストです。チェックリストは用途に合わせて使用してください。

- 新規インストールチェックリスト
- アップグレードチェックリスト

新規インストールチェックリスト

Lotus Sametime または Lotus Sametime、Instant Messaging Limited Use version の新規インストールには次のチェックリストを参考にしてください。

作業	完了状況
このマニュアルが発行された時点で提供されていなかった情報を、Sametime 7 for i5/OS の CD-ROM に収録されている Readme ファイルを読んで確認します。最新の情報は、提供可能になった時点で次の Sametime for i5/OS の Web サイトに掲載されます。 http://www.ibm.com/eserver/iserries/sametime (英語)	
使用しているサーバーが Sametime の最低限のハードウェア要件とソフトウェア要件を満たしているかを確認します。 詳しくは、第 1 章の「Lotus Sametime の要件」を参照してください。 Domino 7 および Sametime 7 には i5/OS V5R3 が必要です。現在 OS/400 V5R1 または V5R2 を使用している場合は、必ず i5/OS V5R3 にアップグレードしてから Sametime 7 をインストールしてください。	
TCP/IP 環境を設定します。 詳細については、第 2 章「TCP/IP 環境の設定」を参照してください。	
Sametime を追加する Domino Server を設定して Sametime 環境を整えます。 第 3 章「新しい Sametime 環境の設定」を参照してください。	
システムに Sametime をインストールします。 詳しくは、第 5 章「Sametime のインストール」を参照してください。	
Domino Server に Sametime を追加します。 第 5 章「Domino Server への Sametime の追加」を参照してください。	
Sametime クライアントソフトウェアを使用し、ユーザーを Sametime サーバーに追加します。 Sametime クライアントソフトウェアの使用について詳しくは、第 6 章「Sametime クライアントソフトウェアの配置」を参照してください。 ユーザーの追加について詳しくは、『IBM Lotus Sametime 7.0 システム管理者ガイド』(sthelppad.nsf)を参照してください。	
Sametime サーバーを設定し実行した後、第 8 章「Sametime のオプション設定」のオプション設定を実行できます。	

アップグレードチェックリスト

既存の Lotus Sametime 環境を完全版の Sametime または Instant Messaging Limited Use version の Sametime にアップグレードする際は、次のチェックリストを参考にしてください。

作業	完了状況
<p>このマニュアルが発行された時点で提供されていなかった情報を、Sametime 7 for i5/OS の CD-ROM に収録されている Readme ファイルを読んで確認します。最新の情報は、提供可能になった時点で次の Sametime for i5/OS の Web サイトに掲載されます。 http://www.ibm.com/eserver/iserries/sametime (英語)</p>	
<p>使用しているサーバーが Sametime の最低限のハードウェア要件とソフトウェア要件を満たしているかを確認します。 第 1 章の「Lotus Sametime の要件」を参照してください。 Domino 7 および Sametime 7 には i5/OS V5R3 が必要です。現在 OS/400 V5R1 または V5R2 を使用している場合は、必ず i5/OS V5R3 にアップグレードしてから Sametime 7 をインストールしてください。</p>	
<p>すべての Sametime サーバーのアップグレードの準備が整っていることを確認します。 第 4 章「既存の Sametime 環境をアップグレードするための準備」を参照する。</p>	
<p>システムに Sametime 7 をインストールします。インストールプロセス中に、既存の Sametime サーバーを自動的にアップグレードします。 詳しくは、第 5 章「Sametime のインストール」を参照してください。</p>	
<p>Sametime 7 に関するクライアントソフトウェア情報を読んで、既存のユーザーが引き続き Sametime にアクセスできることを確認してください。完全版の Sametime を使用している場合、ユーザーは Sametime Connect クライアントの新バージョンをダウンロードする必要があります。 第 6 章「Sametime クライアントソフトウェアの配置」を参照してください。</p>	
<p>Sametime サーバーを設定し実行した後、第 8 章「Sametime のオプション設定」のオプション設定を実行できます。また、Sametime の特定のオプション設定を使用している場合 (Sametime Conversion Services など) は、それらもアップグレードしなければならない場合があります。</p>	

付録 B コマンドを使用した TCP/IP 環境の設定

Sametime サーバーは、必要に応じて複数の TCP/IP アドレスを使用できるように設定にしてください。Sametime サーバーがシステム上の他の HTTP サーバーと TCP/IP ポートを共有しないようにする必要があります。この付録では、TCP/IP の設定を確認し、サーバー間の競合を解決するために変更する方法、および Sametime サーバーの設定に必要な TCP/IP 情報の収集について、順に説明します。

Sametime を使用するために TCP/IP 環境を設定する場合は、次の作業を行います。

- ホストテーブルのエントリの確認
- 既存の Domino Server の設定の確認
- Sametime サーバーの TCP/IP アドレスの選択
- TCP/IP アドレスの追加
- ホストテーブルの更新
- 既存の Domino Server の設定の更新
- IBM HTTP サーバーの設定の更新

コマンドを使用してホストテーブルのエントリを確認する

サーバーで定義されているホストテーブルのエントリのリストを確認する手順は、次のとおりです。

ホストテーブルのエントリを確認する手順は、次のとおりです。

1. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
CFGTCP
2. [TCP/IP の構成] 画面でオプション 10 を選択して、TCP/IP ホストテーブルのエントリを確認します。
3. 各ホスト名および対応する TCP/IP アドレスを記録しておきます。この情報は後で必要になります。

コマンドを使用して既存の Domino Server の設定を確認する

メモ 使用しているシステムで Domino Server が設定されていない場合は、このセクションの手順を省略して次に進んでください。

現在 Domino Server で使用されている TCP/IP アドレスを確認する手順は、次のとおりです。

1. i5/OS コマンドインターフェースから、サーバーにサインオンします。

メモ 以降の手順では、Domino Server がすでに起動していることを想定しています。

2. 次のコマンドを入力して、各 Domino Server の現在の TCP/IP アドレスを確認します。

WRKDOMCSL サーバー名

サーバー名は Domino Server の名前です。

3. Domino コンソールの画面で次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。

sh port tcpip

4. [F5] キーを押して画面表示を更新します。

ポート TCP/IP の表示コマンドを実行すると、Domino Server が使用している TCP/IP アドレスが表示されます。

- Domino Server が TCP/IP アドレスを 1 つのみ使用している場合、ポート 1352 を使用する TCP/IP ローカルアドレスが具体的に表示されます (10.1.2.3:1352 など)。
- Domino Server が有効な TCP/IP アドレスをすべて使用している場合、特定の TCP/IP アドレスが表示されるのではなく、ローカルアドレスとして *:1352 と表示されます。

5. 各 Domino Server の TCP/IP アドレスを記録しておきます。この情報は後で使用します。

コマンドを使用して Sametime サーバーの TCP/IP アドレスを選択する

ここでは、システムで定義済みの TCP/IP アドレスを確認し、Sametime サーバーで使用するアドレスを決定します。また、必要に応じて、サーバー間の競合を回避するために追加の TCP/IP アドレスを設定します。

1. システムで現在定義されている TCP/IP アドレスを確認します。

- i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。

CFGTCP

- [TCP/IP の構成] 画面で、オプション 1 を選択し、現在定義されている TCP/IP インターフェースのリストを表示します。
2. ホストテーブルを見るか `sh port tcpip` コマンドを実行して確認し、記録しておいた各 TCP/IP アドレスが現在定義されていることを確認します。
 3. 次のサーバーやインスタンスを排他的に使用する場合に、それぞれに TCP/IP アドレス (複数可) が割り当てられるようにするため、システムに十分な数の TCP/IP アドレスが設定されていることを確認します。
 - Sametime サーバー
 - 既存の各 Domino Server
 - システムで実行中の IBM HTTP サーバーの各インスタンス
 4. 追加の TCP/IP アドレスとホスト名を割り当てる必要があるときは、ネットワーク管理者に連絡します。
 5. ドメインネームサーバー (DNS) にも新しいホスト名が追加されていることを確認します。
 6. Sametime サーバーに割り当てる TCP/IP アドレスを選択します。
 7. 既存の各 Domino Server と IBM HTTP サーバーの各インスタンスに割り当てる TCP/IP アドレスを決定します。

この情報は記録しておいてください。既存のサーバーと Sametime サーバーが使用するポートの競合を回避するため、後でこの情報に基づいて、既存のサーバーに固有の IP アドレスが割り当てられていることを確認します。

追加の TCP/IP アドレスを定義する必要がある場合は、「コマンドを使用して TCP/IP アドレスを追加する」に進んでください。

追加の TCP/IP アドレスを定義する必要がない場合は、「コマンドを使用してホストテーブルを更新する」に進んでください。

コマンドを使用して TCP/IP アドレスを追加する

追加の TCP/IP アドレスを割り当てる必要がない場合は、このセクションの手順を省略して次に進んでください。

使用しているサーバーに TCP/IP アドレスを追加する手順は、次のとおりです。

1. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。

CFGTCP

2. オプション 1 を選択し、TCP/IP インターフェースの操作に移ります。

3. TCP/IP インターフェースを追加するには、[TCP/IP インターフェースの処理] 画面で [OPT] 欄に 1 と入力し、[Enter] キーを押します。
4. [TCP/IP インターフェースの追加] 画面に次の情報を入力します。

フィールド	説明
Internet Address	追加する TCP/IP アドレスを指定します。たとえば、10.1.2.4 と入力します。
回線記述	LAN アダプタの回線記述の名前を指定します。たとえば、TRNLINE と入力します。
サブネットマスク	使用しているインターフェースに対する適切なサブネットマスクを指定します。たとえば、255.255.255.0 と入力します。

5. [Enter] キーを押して新しいインターフェースを追加し、[TCP/IP インターフェースの処理] 画面に戻ります。
6. インターフェースを起動するには、そのインターフェースの横に 9 と入力して、[Enter] キーを押します。

コマンドを使用してホストテーブルを更新する

ここでは、Sametime サーバーのホストテーブルにエントリを追加します。必要に応じて、既存の Domino Server のエントリも更新します。

Sametime サーバーのホストテーブルのエントリを追加する手順は、次のとおりです。

1. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
CFGTCP
2. 10 と入力し、[Enter] キーを押して、TCP/IP ホストテーブルのエントリの操作に移ります。
3. 選択した TCP/IP アドレスのうち、ホストテーブルにリストされていないものがあれば、次の手順で新しいエントリを追加します。
 - ホストテーブルのエントリを追加するには、空欄のインターネットアドレスの横にある [OPT] 欄に 1 と入力し、[Enter] キーを押します。
 - [TCP/IP ホストテーブル項目の処理] 画面が表示されたら、次の情報を入力します。

フィールド	説明
Internet Address	Domino Server に割り当てた TCP/IP アドレスを入力します。たとえば、10.1.2.4 と入力します。
ホスト名	Domino Server の完全修飾サーバー名をホスト名として入力します。たとえば、stdom1.acme.com と入力します。

メモ 1つの IP アドレスには複数のホスト名を追加できます。短縮名を指定するときには、最初に Domino Server の完全修飾サーバー名を指定しておく必要があります。

- [Enter] キーを押して、ホストテーブルのエントリを作成します。

4. 次の手順に従って、既存のホストテーブルのエントリを更新します。

メモ 使用する TCP/IP アドレスがホストテーブルにリストされていても、そのアドレスを使用できるホスト名として Domino Server がリストされていない場合は、既存のホストテーブルのエントリを更新して、ホスト名を追加する必要があります。

- ホストテーブルのエントリを変更するには、インターネットアドレスの横にある [OPT] 欄に 2 と入力し、[Enter] キーを押します。
- [TCP/IP ホストテーブル項目の変更] 画面に、現在定義されているホスト名のリストが表示されます。必要に応じて、[PageDown] キーを押してスクロールしてください。
- 最後のホスト名まで表示されたら、[値の続きは+] プロンプトに + を入力し、[Enter] キーを押します。
- [パラメーターの追加の値の指定] 画面が表示されたら、既存のホスト名または *SAME エントリの 1 つを Domino Server の完全修飾サーバー名に置き換えます。たとえば、stdom1.acme.com と指定します。

メモ このテーブルには、最初に Domino Server の完全修飾サーバー名をリストする必要があります。

- [Enter] キーを押してホスト名を更新します。[Enter] キーをもう一度押すと、ホストテーブルのエントリが変更されます。

メモ 上記の手順に従ってホストテーブルのエントリを更新し、ホスト名を *BLANK に置き換えると、インターネットアドレスのホスト名を削除できます。

既存の Domino Server のホストテーブルのエントリが正しく定義されていること、およびそれらのエントリが「Sametime サーバーの TCP/IP アドレスを選択する」で使用する TCP/IP アドレスと対応していることを確認します。

ドメインネームサーバーを更新する

追加のホスト名を定義したときは、TCP/IP 関連の管理者に連絡して、必ず新しいホスト名をドメインネームサーバー (DNS) に追加してください。

TCP/IP を、ホストテーブルの検索前に DNS を検索するよう設定した場合、追加の設定変更が必要な場合があります。次の手順に従い、TCP/IP 設定プロパティを確認してください。

1. i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。
CFGTCP
2. [TCP/IP の構成] 画面で 12 と入力し、[Enter] キーを押して TCP/IP ドメイン情報を変更します。
3. [TCP/IP ドメイン変更 (CHGTCPDMN)] 画面で、[ホスト名検索の優先順位] 設定を探します。

```
Change TCP/IP Domain (CHGTCPDMN)
Type choices, press Enter.
Host name . . . . . 'DOM1'
Domain name . . . . . 'ACME.COM'
Domain search list . . . . . *DFT
Host name search priority . . . *REMOTE *REMOTE, *LOCAL, *SAME
Domain name server:
Internet address . . . . . '10.1.2.4'
                          '10.1.2.200'
Bottom
F3=Exit   F4=Prompt   F5=Refresh   F10=Additional parameters   F12=Cancel
F13=How to use this display   F24=More keys
```

値が *REMOTE の場合、この値を *LOCAL に変更するか、使用している Sametime サーバーに関連付けられた IP アドレスの DNS にリストされた最初の値が、完全修飾ホスト名であることをネットワーク管理者に確認します。Sametime サーバーを正しく機能させるため、完全修飾ホスト名は、いかなる短縮名より前にリストされる必要があります。

このフィールドの値が *LOCAL である場合、必要な手順はありません。前の手順で、完全修飾ホスト名がローカルホストテーブルの最初にリストされるよう、実行済みです。

注意 [検索順] を変更した場合、TCP/IP を停止して再起動し、変更を有効にする必要があります。

4. [F3] キーを押して画面を閉じます。

コマンドを使用して既存の Domino Server の設定を更新する

メモ システム上に Domino Server を設定していない場合は、このセクションの手順を省略して「コマンドを使用して IBM HTTP サーバーの設定を更新する」に進んでください。

ここでは、割り当てられた完全修飾ホスト名に既存の Domino Server が正しく関連付けられていることを確認します。これによって、Sametime サーバーとの競合を回避できます。必要に応じて既存の Domino Server の設定を変更してパーティション化を可能にし、固有の完全修飾ホスト名を指定します。

notes.ini ファイルを変更してサーバーの完全修飾ホスト名を変更した場合でも、サーバー文書ではその変更が反映されていない場合があります。この手順では、サーバー文書と notes.ini ファイルの両方が更新されます。

1. Domino Server がアクティブな場合は、第 1 章で説明した権限を持つプロファイルを使用して、次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押して終了します。

ENDDOMSVR *DOM1*

DOM1 は Domino Server の名前です。

メモ Domino Server が終了するまで数分かかる場合があります。

2. 次のコマンドを入力し、[F4] キーを押して、Domino Server の設定を変更します。

CHGDOMSVR *DOM1*

DOM1 は Domino Server の名前です。

3. [詳細サービス] フィールドに [*PARTITION] または [*ALL] と表示されます。どちらの値も指定されていない場合は、[*PARTITION] と指定します。
4. [インターネットアドレス] フィールドに、この Domino Server の完全修飾ホスト名を入力します。
5. [Enter] キーを押します。

サーバーの設定の変更が正常に完了すると、次のメッセージが表示されます。

Command CHGDOMSVR ended successfully.(コマンド CHGDOMSVR は正常に実行されました。)

6. 次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押して Domino Server を再起動します。
STRDOMSVR *DOM1*

DOM1 は Domino Server の名前です。

メモ Domino Server が起動するまで数分かかる場合があります。

7. Domino Administrator を使用してサーバー文書内のサーバー設定を編集し、Domino HTTP サーバーが特定のホスト名に関連付けられるようにします。
 - [設定] タブを選択します。
 - 左側のペインで、[サーバー] をクリックして [すべてのサーバー文書] を選択します。
 - 対象の Domino Server のサーバー文書を開き、[サーバーの編集] ボタンをクリックします。
 - [インターネット] タブを選択してから、[HTTP] タブを選択します。
 - [ホスト名] フィールドで、Domino Server 変更コマンドで指定した TCP/IP アドレスの DNS 名を確認します。
 - [ホスト名へのバインド] フィールドから [有効] を選択します。
 - [ポート] タブ、[インターネットポート] タブ、および [Web] タブを順に選択します。
 - HTTP 設定で、TCP/IP ポートのポート番号が指定されていることを確認します。デフォルトのポート番号は 80 です。
 - [保存して閉じる] をクリックします。
8. Domino Server を停止し、再起動します。
9. Domino Server が再起動したら Notes Client または Web ブラウザからアクセスして、TCP/IP を使用して Domino Server にアクセスできるかどうかを確認してください。

コマンドを使用して IBM HTTP サーバーの設定を更新する

メモ IBM HTTP サーバー (オリジナルバージョンまたは Apache 搭載バージョン) を現在使用していない場合は、このセクションの手順を省略して「第 3 章 新しい Sametime 環境の設定」に進んでください。

IBM HTTP サーバーを使用している場合は、サーバーの各インスタンスが、それぞれ特定の TCP/IP アドレスに関連付けられていることを確認する必要があります。これによって、Sametime サーバーとの競合を回避できます。

IBM HTTP サーバーの設定を変更する手順は、次のとおりです。

1. IBM HTTP サーバーが現在稼働中の場合、i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押してサーバーを終了します。

ENDTCPSVR SERVER(*HTTP)

2. 次のコマンドを入力し、[Enter] キーを押して、HTTP 管理サーバーを開始します。

STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)

3. IBM HTTP サーバーの設定ページを開きます。

- Web ブラウザを起動します。
- 次の URL を入力します。

`http://mysystem:2001`

`mysystem` はサーバーの名前です。

- **[IBM HTTP Server for AS/400]** をクリックします。
- **[設定と管理]** をクリックします。
- **[設定]** タブを選択します。

4. 左側のペインのプルダウンメニューから、設定を選択します。

メモ 設定済みの IBM HTTP サーバーのインスタンスに対して個々に、次の手順を実行します。

[サーバーの種類] フィールドに [オリジナル] と表示されている場合は、次の手順を実行します。

- 左側のペインのリストから、**[基本設定]** を選択します。
- 右側のペインの [ホスト名] フィールドに、サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- **[サーバーをホスト IP アドレスに関連付ける]** オプションを選択します。
- **[適用]** をクリックします。

[サーバーの種類] フィールドに [Apache] と表示されている場合は、次の手順を実行します。

- 左側のペインのリストから、**[グローバル設定]** を選択します。
- **[Web サイト定義]** の下の **[一般設定]** をクリックします。
- **[使用するサーバーの IP アドレスとポート]** セクションで、IP アドレスとポートテーブルの設定を確認します。
- IP アドレスが **[All]** と表示されていた場合は、その列を選択します。
- **[All]** をサーバーの IP アドレスに置き換えます。
- **[OK]** をクリックします。

5. IBM HTTP サーバーの各インスタンスを、特定の IP アドレスを使用するように設定した後で再起動します。次のコマンドを入力して、[Enter] キーを押します。

STRTCPSVR SERVER(*HTTP)

IBM HTTP サーバーの管理の詳細は、次の Web サイトの iSeries 情報センターを参照してください。

<http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter>

これで TCP/IP 環境が整いました。次は「第 3 章 新しい Sametime 環境の設定」に進んでください。

付録 C コマンドを使用した Domino Server の設定

システムで追加の Domino Server を設定する場合、次の操作が可能です。

- 新しい Domino ドメインでの Domino Server の設定
- 既存の Domino ドメインへの Domino Server の追加

メモ Sametime 環境で複製機能を使用する場合は、サーバー間で Sametime 設定データベース (stconfig.nsf) を複製しないでください。

上記のオプションの詳細は、第 3 章の「Sametime 設定オプション」を参照してください。

コマンドを使用して新しい Domino ドメインで Domino Server を設定する

新しい Domino ドメインに新しいサーバーを作成する場合は、最初の Domino Server を設定したときと同様の手順に従います。ただし、次の 2 点が異なります。

- このサーバーを設定するときには、[インターネットアドレス] フィールドに、Sametime サーバー用に選択したホスト名を指定する必要があります。デフォルト値の SYSTEM を使用しないでください。また、[インターネットアドレス] フィールドを空欄のままにしないでください。
- サーバーを設定したら、Domino Server に Sametime を追加する前に、Domino Server のサーバー文書を編集していくつかのフィールドを確認する必要があります。

1. 次のコマンドを入力し、[F4] キーを押して、Domino Server を設定します。

CFGDOMSVR

2. 次の設定値を指定して Domino Server を設定します。

メモ 本章では、Sametime に直接適用される設定についてのみ説明します。次の表に設定値が示されていない場合には、任意の値を入力できます。

フィールド	説明
Server Name	Sametime を追加する Domino Server の名前を入力します。たとえば、STDOM1 と入力します。
Option	[*FIRST] を指定します。
Data Directory	Domino Server のデータディレクトリのパスを入力します。たとえば、/LOTUS/DOMINO/stdom1 と入力します。
Organization Name	Domino ドメイン名を入力します。たとえば、AcmeSametime と入力します。
Administrator's Name	Domino 管理者の名前を指定します。この管理者は Sametime サーバーの管理者にもなります。
Internet Password	Domino 管理者のインターネットパスワードを指定します。サーバーの Sametime コンポーネントにアクセスするには、インターネットパスワードを指定する必要があります。
Web Browsers	[*HTTP] を指定します。 Sametime では、Domino HTTP サーバーを使用します。
Internet Mail packages	[*NONE] を指定して、オーバーヘッドを少なくします。Sametime にはメールパッケージは必要ありません。
Directory Services	[*NONE] を指定して、オーバーヘッドを少なくします。Sametime にはディレクトリサービスは必要ありません。
Advanced services	同じシステムで複数の Domino Server が稼動しているので、[*PARTITION] を指定します。
Internet Address	Sametime サーバーの完全修飾ホスト名を入力します。
Bind HTTP	[*YES] を指定します。

3. 設定を入力したら、[Enter] キーを押してサーバーの設定が完了するのを待ちます。
4. Domino Server を起動します。

5. Domino Administrator を使用してサーバー文書を開き、以下のフィールドの内容を確認します。必要に応じてフィールドを更新します。

タブ	フィールド	設定
セキュリティ	Programmability の制限:制限なしで実行	別の署名でエージェントに登録している場合、その署名もここに入力します。
ポート - Notes ネットワークポート	ポート	TCP/IP メモ このフィールドには、上記のとおり正確に指定しないと、サーバーに Sametime を追加できません。
ポート - Notes ネットワークポート	ネットアドレス	Domino Server の完全修飾ホスト名を指定します。 ここで IP アドレスを指定することはできません。また、下記の [インターネットプロトコル - HTTP] の [ホスト名] フィールドで指定された名前と一致する必要があります。 たとえば、stdom1.acme.com と指定します。
インターネットプロトコル - HTTP	マッピング:ホーム URL	サーバーにアクセスするユーザーに対して、Sametime サーバーのホームページをデフォルトページとして表示するには、次の値を指定します。 stcenter.nsf?Open
インターネットプロトコル - HTTP	基本情報:ホスト名	Sametime サーバーの TCP/IP アドレスの DNS 名を指定します。 上記の[ポート - Notes ネットワークポート]の[ネットアドレス]フィールドで指定された名前と一致する必要があります。 たとえば、stdom1.acme.com と指定します。
インターネットプロトコル - HTTP	基本情報:ホスト名へのバインド	有効

6. サーバー文書を変更した場合は、Domino Server を停止してから再起動して、変更を有効にします。

これでサーバーの設定は完了しました。第 3 章の「Domino Server へのアクセスを確認する」セクションに進んでください。

コマンドを使用して既存の Domino ドメインに Domino Server を追加する

既存の Domino ドメインに Domino Server を追加する手順は、次のとおりです。

1. 通常の動作環境で追加のサーバーを登録します。登録時には、必ず次のように設定してください。

- 登録時に作成されるサーバーの ID ファイルは、Sametime サーバーを設定するサーバーのいずれかの場所に保存します。また、パス名を記録しておきます。Sametime サーバーの設定時に、このパス名を指定する必要があります。

- ID ファイルの所有者を QNOTES に変更します。そのためには、i5/OS のコマンドラインに次のコマンドを入力します。

```
CHGOWN IDPATH QNOTES
```

IDPATH は、サーバーの ID ファイルのパスを表します。

- Domino ドメインの最初の Domino Server と同じネットワーク名を使用します。

追加のサーバー登録の詳細については、Lotus のマニュアル『Domino 7 for i5/OS インストールガイド』を参照してください。

2. 次のコマンドを入力し、[F4] キーを押します。

```
CFGDOMSVR
```

3. 次の設定値を指定して Domino Server を設定します。

メモ 本章では、Sametime に直接適用される設定についてのみ説明します。次の表に設定値が示されていない場合には、任意の値を入力できます。

フィールド	説明
Server Name	Sametime を追加する Domino Server の名前を入力します。たとえば、STDOM1 と入力します。
Option	[*ADD] を指定します。
Data Directory	Domino Server のデータディレクトリのパスを入力します。たとえば、/LOTUS/DOMINO/stdom1 と入力します。
Get Domino Directory From	サーバーが使用する Domino ディレクトリが含まれる Domino Server の名前を入力します。たとえば、DOM1 と入力します。
Domino directory type	[*CENTRAL] を指定します。

フィールド	説明
ID file	Sametime サーバーを登録したときに作成されたサーバーの ID ファイルのパスを指定します。たとえば、/LOTUS/DOMINO/stdom1.id と入力します。
ID file's password	必要に応じて、ID ファイルのパスワードを指定できます。
Web Browsers	[*HTTP] を指定します。 Sametime では、Domino HTTP サーバーを使用します。
Internet Mail packages	[*NONE] を指定します。
Directory Services	[*NONE] を指定して、オーバーヘッドを少なくします。Sametime にはディレクトリサービスは必要ありません。
Connection Services	[*NONE] を指定します。
Advanced services	同じサーバーで複数の Domino Server が稼動しているため、[*PARTITION] を指定します。
Internet Address	Sametime サーバーの完全修飾ホスト名を入力します。
Bind HTTP	[*YES] を指定します。

4. 設定を入力したら、[Enter] キーを押してサーバーの設定が完了するのを待ちます。
5. 新しい Domino Server に Sametime を追加する前に、サーバー文書内のいくつかのフィールドの設定が正しいことを確認する必要があります。サーバーの管理方法によって、ドメインの Domino ディレクトリ内のサーバー文書を確認して、新しいサーバーに変更を複製するか、新しいサーバーを起動して、そこにあるサーバー文書を確認できます。

Domino Administrator を使用して、Sametime サーバー文書を開き、以下のフィールドの内容を確認し、必要に応じてフィールドを更新します。

タブ	フィールド	設定
セキュリティ	Programmability の制限:制限なしで実行	別の署名でエージェントに登録している場合、その署名もここに入力します。
ポート - Notes ネットワークポート	ポート	TCPIP メモ このフィールドには、上記のとおり正確に指定しないと、サーバーに Sametime を追加できません。
ポート - Notes ネットワークポート	ネットアドレス	Domino Server の完全修飾ホスト名を指定します。 ここで IP アドレスを指定することはできません。また、下記の [インターネットプロトコル - HTTP] の [ホスト名] フィールドで指定された名前と一致する必要があります。 たとえば、stdom1.acme.com と指定します。
インターネットプロトコル - HTTP	マッピング:ホーム URL	サーバーにアクセスするユーザーに対して、Sametime サーバーのホームページをデフォルトページとして表示するには、次の値を指定します。 stcenter.nsf?Open
インターネットプロトコル - HTTP	基本情報:ホスト名	Sametime サーバーの TCP/IP アドレスの DNS 名を指定します。 上記の[ポート - Notes ネットワークポート]の[ネットアドレス]フィールドで指定された名前と一致する必要があります。 たとえば、stdom1.acme.com と指定します。
インターネットプロトコル - HTTP	基本情報:ホスト名へのバインド	有効

6. [保存して閉じる] をクリックします。

7. サーバー文書を変更した場合は、Domino Server を再起動して変更を有効にします。

これでサーバーの設定は完了しました。第3章の「Domino Server へのアクセスを確認する」セクションに進んでください。

索引

記号・英数字

Conversion Services	79
Domino Server の終了	34
Domino Server	18, 22, 27, 29, 31, 90, 95, 99, 102
HTTP サーバー	25, 96
OS/400 の権限	8
Sametime Conversion Services	79
Sametime 管理ツール	69
Sametime コンポーネントの起動	72
Sametime コンポーネントの終了	72
Sametime サーバー	11
Sametime サーバーの起動	
オペレーションナビゲーター	70
Sametime サーバーの終了	
オペレーションナビゲーター	71
Sametime ツールキット	82
Sametime のインストール	47, 49
Sametime の管理	69
Sametime の削除	76
Sametime の設定	8
Sametime の追加	34, 53
SIP	
ゲートウェイ	83
コネクタ	83
TCP/IP アドレス	18, 19, 20, 90, 91
TCP/IP の設定	17, 19, 89

ア行

インストール済みソフトウェアの確認	9
-------------------	---

カ行

既存の Domino ドメイン	31, 102
-----------------	---------

コミュニティサービスマルチプレクサ	82
-------------------	----

サ行

サーバーの起動	34
情報	15

タ行

追加の Domino Server	99
添付ファイル	79

ハ行

フィードバック	
ドキュメント	1
複数のサーバー	5
プリントキャプチャユーティリティ	5, 14
ホストテーブル	17, 89
更新	20, 92
ホワイトボード	5, 79, 80

マ行

マルチプレクサ	82
---------	----

ヤ行

要件	7, 11
Sametime クライアント	14
オーディオ/ビデオ	14
ブラウザ	14

ラ行

ランゲージパック	51, 52, 53
----------	------------